さきたま古墳群　改訂版（行田市）

（埼　玉　古　墳　群）

さきたま古墳群の全景/中の山古墳のすぐ右手が戸場口山古墳（跡）/稲荷山古墳の北側（図の上）には、白山愛宕山古墳を含む白山古墳群が所在している

埼玉県立さきたま史跡の博物館の展示資料より

【稲荷山古墳】

稲荷山古墳/5世紀後半頃築造の前方後円墳/右手が復元された前方部、左奥は後円部/長方形の周堀が巡っている

周堀が二重に巡り、墳丘括れ部と中堤に造出しがある/二段築成で、葺石は見られないようだ video

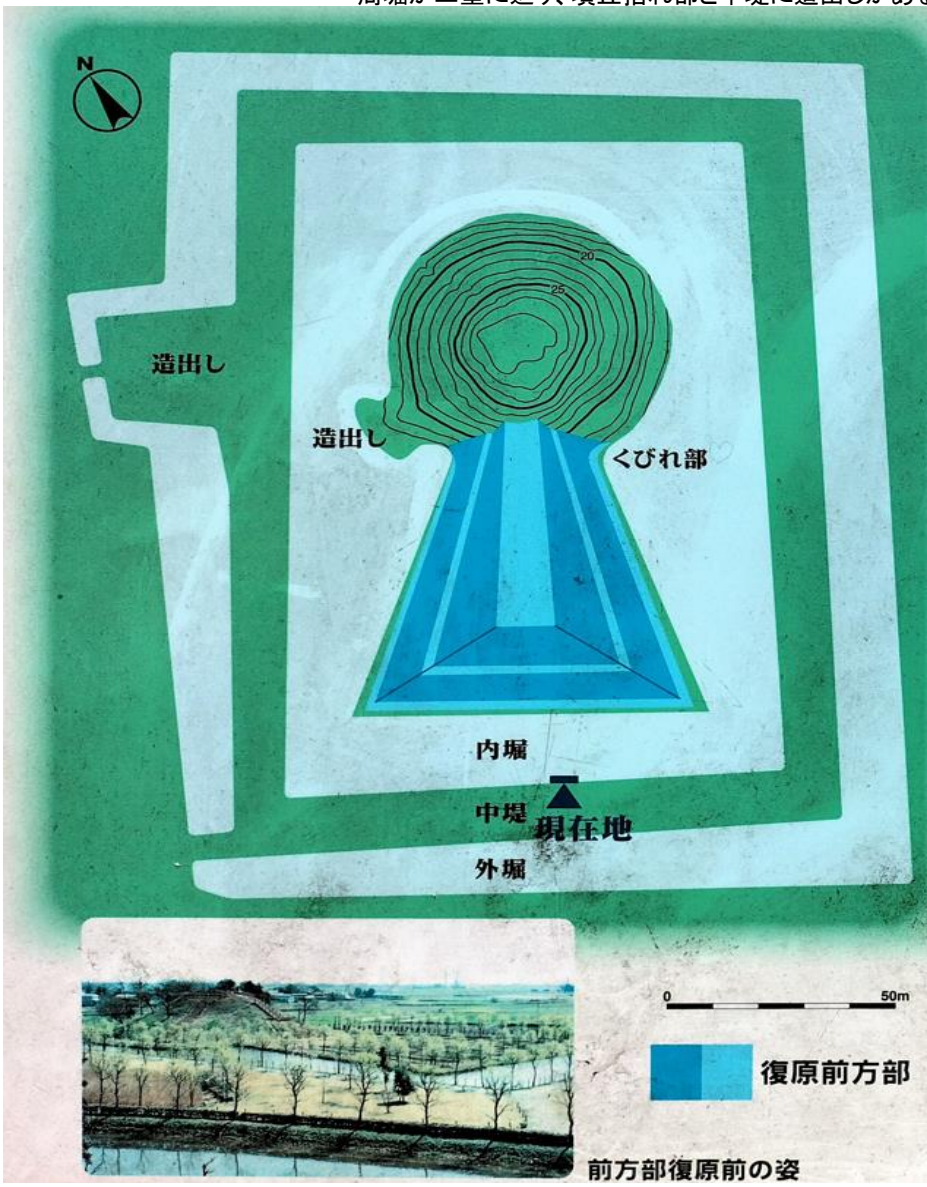
稲荷山古墳

全長120mの前方後円墳です。周囲には長方形の堀が中堤をはさんで二重に巡り、墳丘くびれ部と中堤には造出しと呼ばれる張出しがあります。古墳が造られた時期は、5世紀後半ころと考えられ、埼玉古墳群の中で最初に造られた古墳です。

前方部は、1937年に土取り工事で失われましたが、2004年に復原されました。

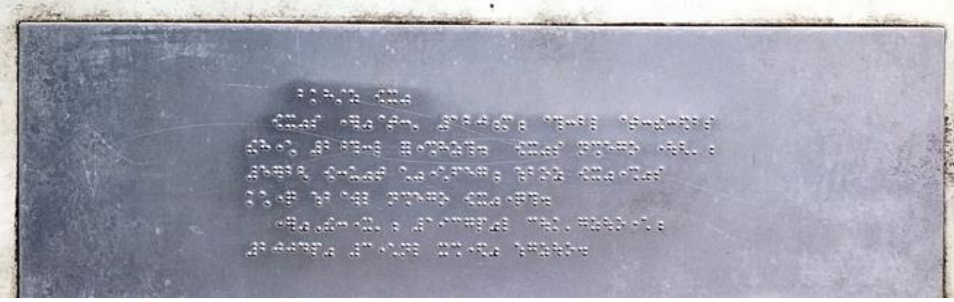
1968年の発掘調査では、後円部から二つの埋葬施設が発見されました。そのうち礫槨はよく残っており、多くの副葬品が出土しました。その一つである鉄剣からは、1978年に115文字の銘文が見出され、他の副葬品とともに1981年に国宝に指定されています。

平成19年（2007年）　埼玉県教育委員会



Inariyama Kofun

The tumulus *(kofun)*, which totals 120 meters in length, is surrounded by two rectangular moats. This is considered to be the earliest of a series of *kofun* built in Sakitama Ancient Burial Mounds, and is believed to have been created in the mid to late 5th century. The front portion of *kofun* was lost in 1937 however in March 2004 it was reconstructed.



それでは前方部の後ろから墳丘に登ってみよう！

video

そこで、左手に周堀（内堀）を見たところ/前方には丸墓山古墳が見える

同じく、右手に周堀を見たところ/前方には将軍山古墳が見える

二段築成のテラス（平坦面）辺りで墳頂を見上げたところ video

そこで、左手にテラスを見たところ

同じく、右手にテラスを見たところ/前方には将軍山古墳が見える

前方部墳頂から後円部方向（北方向）を見たところ video

前方部墳頂で、括れ部と後円部を見たところ video

少し左手で、括れ部の感じを見たところ

video

前方部の墳頂から括れ部を見下ろしたところ video

そこで、左手を見たところ/後円部の手前裾から造出し（復元）が張り出しているのが見て取れる

同じく、右手を見たところ

括れ部で後円部を見たところ video

そこで、左手を見たところ/造出しがはっきりと見える

振り返って、前方部墳頂を見上げたところ video

それでは後円部墳頂に登ろう！ video

振り返って、前方部方向を見たところ

video

少し左手から括れ部の感じを見たところ

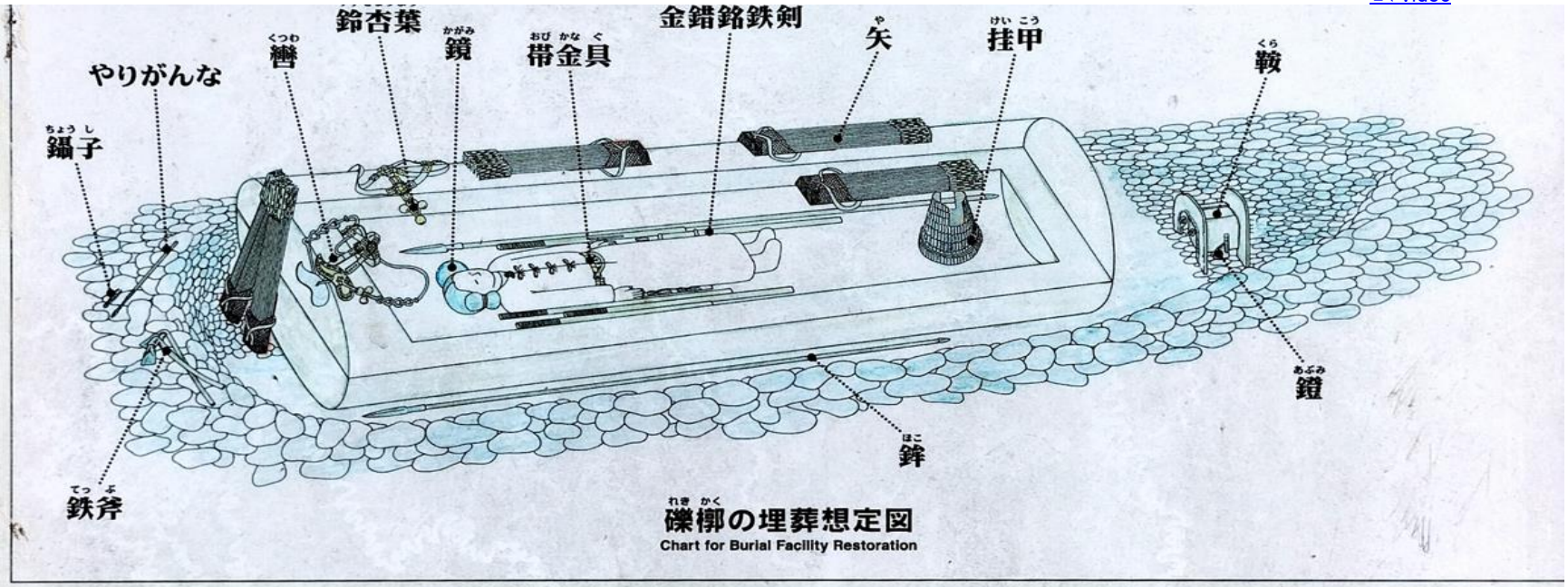
同じく、少し右手から括れ部の感じを見たところ

video

造出しを見下ろしたところ

これは北側からの階段から後円部墳頂を見たところ/埋葬施設が二ヶ所あり、それぞれに説明板がある video

video



礫槨の埋葬想定図
Chart for Burial Facility Restoration

稲荷山古墳の埋葬施設

1968年の発掘調査で、後円部の頂上から二つの埋葬施設を発見しました。一つは素掘りの竪穴で、粘土を敷いた上に棺を置いた粘土槨、もう一つは、船形に掘った竪穴に川原石を貼り付けて並べた上に棺を置いた礫槨です。

粘土槨は、掘り荒らされていて遺物はわずかでしたが、礫槨からは、金錯銘鉄剣をはじめとする豊富な副葬品が出土しました。それらは博物館に展示されています。

これが金錯銘鉄剣が出土した礫槨

金錯銘鉄剣に刻まれた獲加多支鹵大王とは、江田船山古墳から出土した銀錯銘大刀と合わせ読むと、5世紀末の大王（天皇）である雄略天皇である可能性が高いとされる

国宝 武蔵埼玉稲荷山古墳出土品

金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）

115文字が刻まれた金錯銘鉄剣には、剣を作らせたヲワケという人物の8代にわたる系譜と、ヤマト王権に代々仕えていたことなどが記されています。

多彩な副葬品とともに、古代国家の成立を読み解く第一級資料として、1983年に国宝に指定されました。これらの資料は詳しい解説とともに博物館に展示しています。

Inariyama Kofun Artifacts

One of the many artifacts discovered in the Inariyama Kofun is an iron sword with 115 characters inscribed on its sides. The inscription includes the year of the sword's creation as well as the name of the sword's creator (Wowake), eight generations of his genealogy, and their deeds.

This sword is an invaluable resource in unraveling the founding of ancient state in Japanese archipelago and was among the artifacts designated as national treasures in 1983.

画文帯環状乳神獣鏡（がもんたいかんじょうにゅうしんじゅうきょう）

ヒスイ製勾玉

竜文透彫帯金具（りゅうもんすかしぼりおびかなぐ）

轡（くつわ：馬具）

鈴杏葉（すずぎょうよう：馬具）

鞍（くら：馬具）

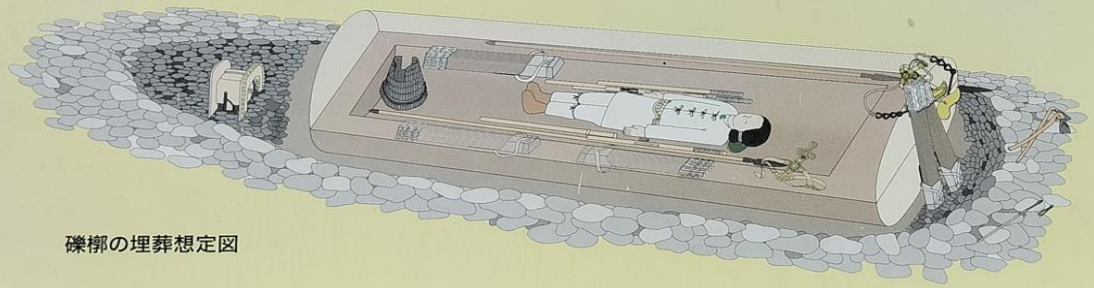
使用された木棺は舟形を呈するようだ

稲荷山古墳　礫槨

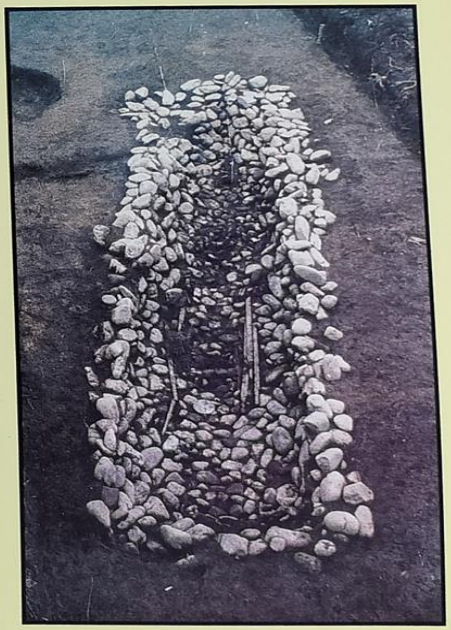
1968年の発掘調査で、後円部の頂上から発見された埋葬施設です。舟の形に掘った竪穴に河原石を貼り付けて並べ、その上に棺を置きました。棺や衣服などの有機物は残っていませんでしたが、副葬品の出土位置などから被葬者と木棺の位置が推定できます。実物の礫槨は、地下1mに保存されています。

Inariyama Kofun Stone Burial Chamber

The stone burial chamber of the Inariyama Kofun was built in the second half of the 5th century C.E. It was discovered in 1968 during an archeological excavation of the kofun. Stones were arranged in the shape of a boat, and a wooden coffin was placed on top of the stones. Luxurious grave goods such as weapons and horse harnesses were placed inside the coffin.

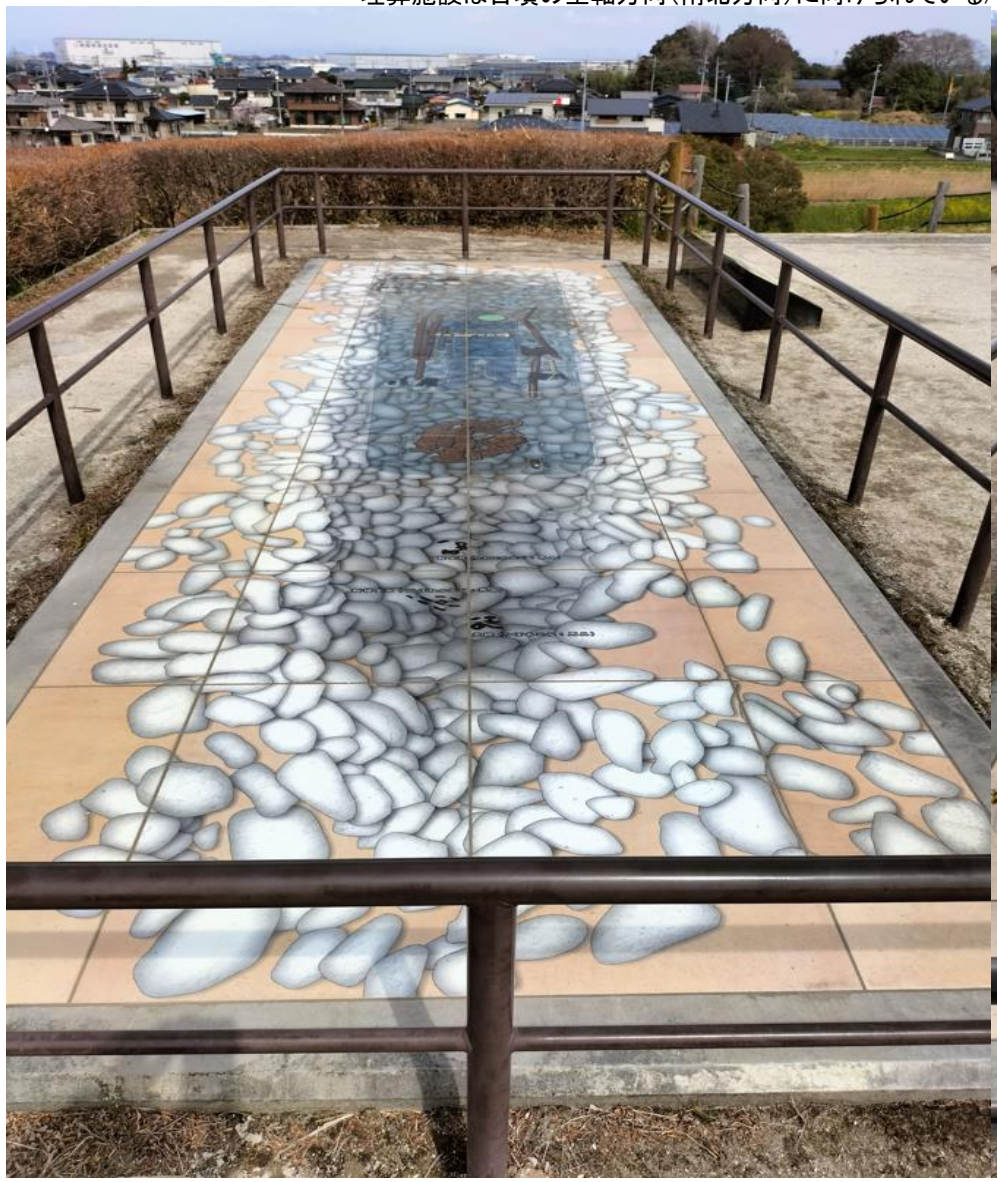


礫槨の埋葬想定図

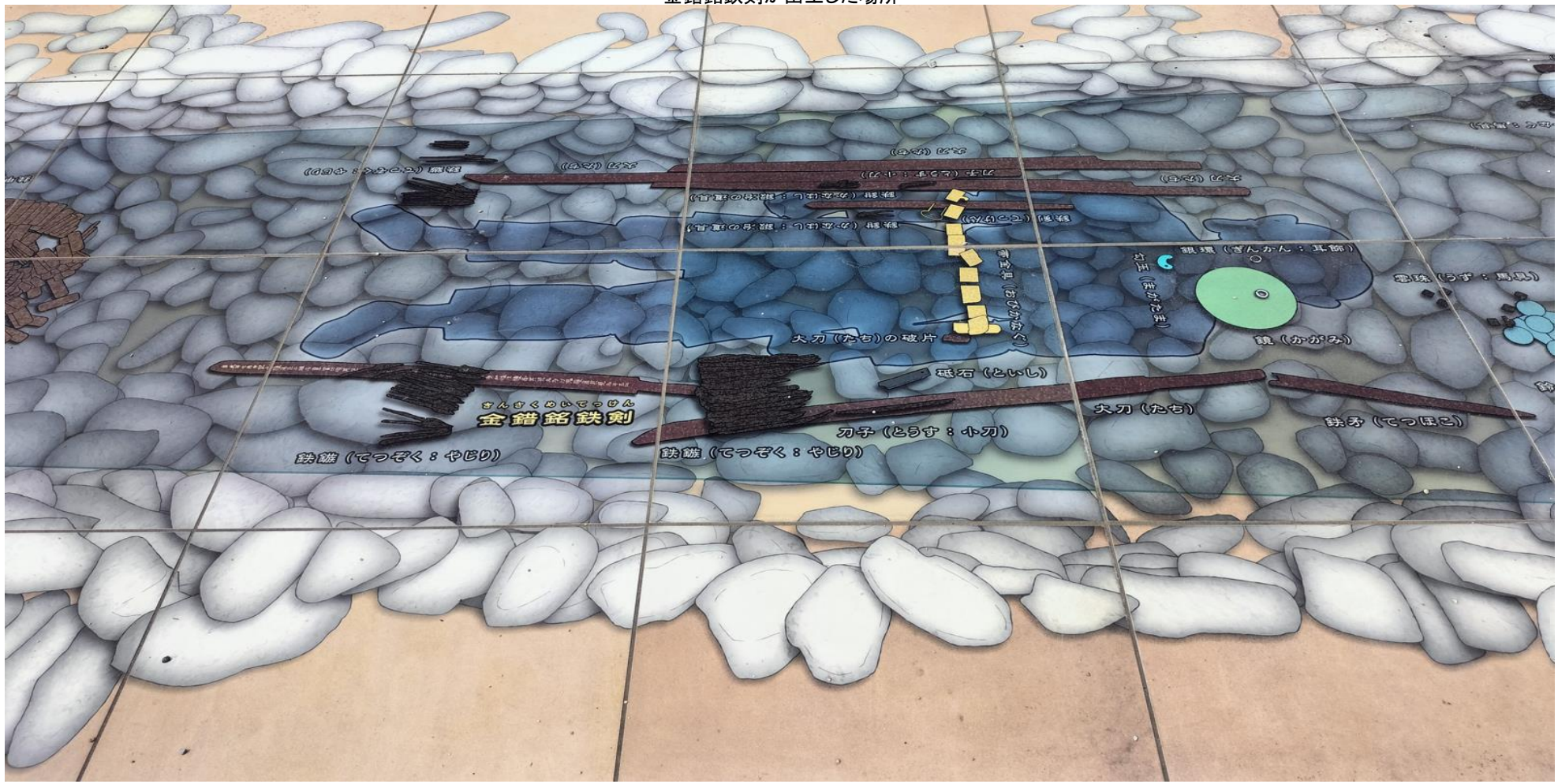


発掘当時の写真

埋葬施設は古墳の主軸方向（南北方向）に向けられている/左は南から北方向に、右は北から南方向に見たところ



金錯銘鉄剣が出土した場所



こちらは粘土槨/埋葬施設は古墳の主軸方向と交わる方向（東西方向）を向いている video

しかし、稲荷山古墳の「真の被葬者」の埋葬施設はこの二ヶ所とは別に存在するようだ（後述の通り）

稲荷山古墳　粘土槨

この埋葬施設は素掘りの竪穴に粘土を敷き、その上に棺を置いたと推定されます。盗掘の被害を受けたため、出土した副葬品は少量の武器や馬具などの破片でしたが、礫槨出土品とともに国宝に指定されています。

Inariyama Kofun Clay Burial Chamber

This burial chamber was created by filling a hole with clay and placing a coffin on top of the clay.
Almost all of the grave goods were stolen from the chamber before modern excavations, but some fragments of weapons and horse harnesses have been discovered.

発掘当時の写真

出土遺物

粘土槨を東西方向に見たところ

墳頂から見た将軍山古墳 video

同じく、二子山古墳

同じく、丸墓山古墳

同じく、北方向に所在する白山古墳群（さきたま古墳群の一部とされる）方向/白山愛宕山古墳などが見える video

アップで見たところ/太陽光パネルの左手前に白山愛宕山古墳、右奥には神明山古墳も見える

北側からの階段下から後円部を見上げたところ/右奥は前方部

video

そこで、左手に周堀を見たところ

同じく、右手に周堀を見たところ

左手が後円部、右奥は前方部 video

少し退いて見たところ/左手が後円部、右手は前方部

括れ部の辺りを見たところ/左手が後円部、右手は前方部/後円部から造出しが張り出している video

そこで、左手に周堀を見たところ

同じく、右手に周堀を見たところ

ズ～と退いて見たところ/左手が後円部、右手は前方部

前方部周堀隅から墳丘を見たところ/右手が前方部、左奥が後円部 video

少し退いて見たところ/右手が前方部、右奥は後円部

反対側の前方部周堀隅から墳丘を見たところ/左手が前方部、右奥が後円部 video

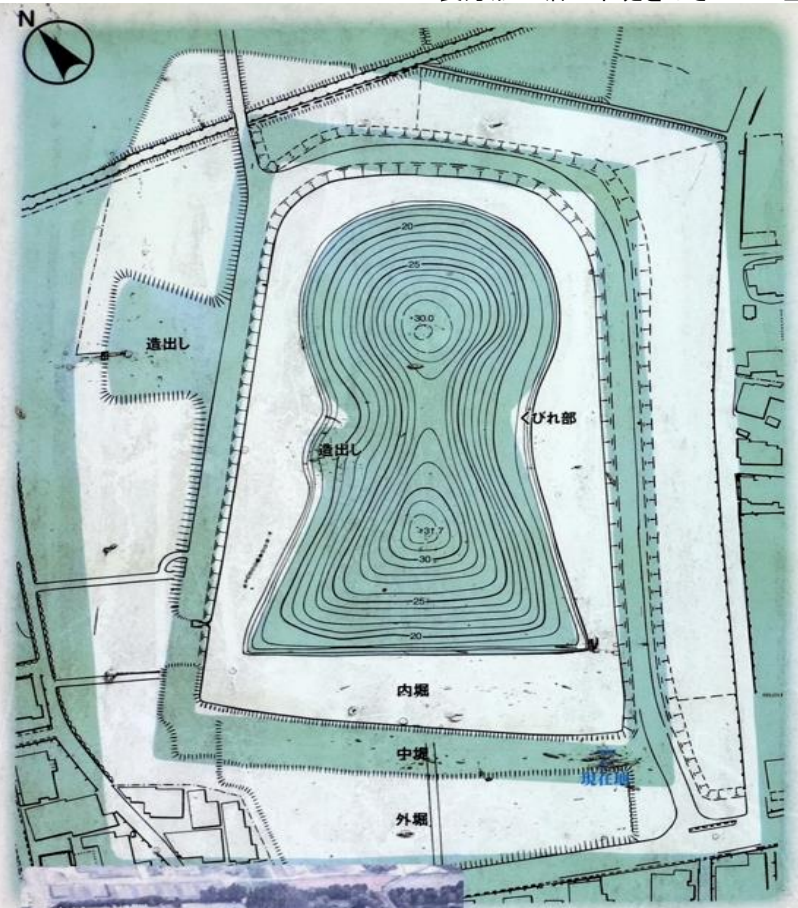
これは後円部を後ろから周堀越しに見たところ

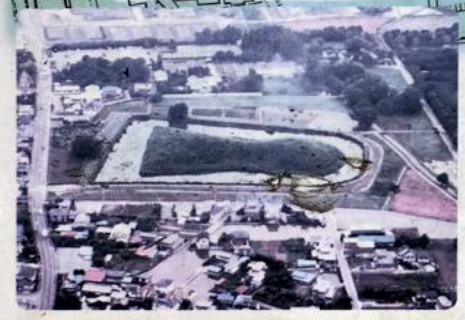
video

【二子山古墳】

外堀越しに二子山古墳を見たところ/6世紀初め頃築造の前方後円墳/左手が後円部、右手は前方部 video

長方形の堀が中堤をはさんで二重に巡っている/墳丘括れ部と中堤にそれぞれ造出しがある





空から見た二子山古墳

二子山古墳

全長132mの前方後円墳です。かつての「武蔵国」（埼玉県、東京都、神奈川県の一部にあたる）で最大の古墳です。

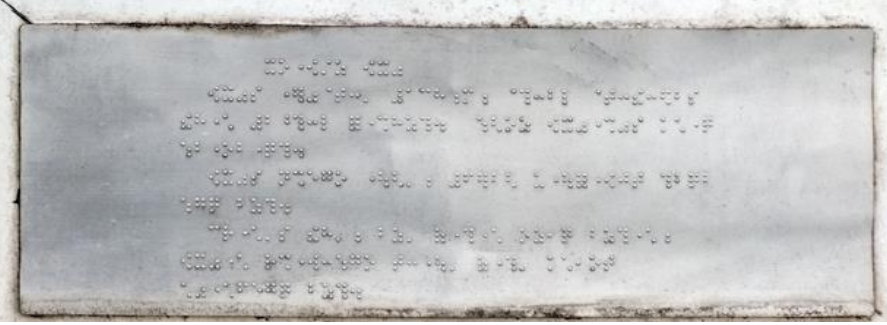
周囲には、長方形の堀が中堤をはさんで二重に巡り、墳丘くびれ部と中堤には造出しと呼ばれる張出しがあります。現在遊歩道になっている高まりが中堤にあたります。内堀は、今は水堀になっていますが、古墳が築造された当時は水はなかったと考えられています。

本格的な発掘調査はされていないため、埋葬施設の形や大きさ、副葬品の内容など、詳しいことはまだわかっていません。出土した埴輪の形から、古墳の造られた時期は、6世紀初め頃と推定されています。

平成20年（2008年）3月　埼玉県教育委員会

Futagoyama Kofun

The burial mound is 138 meters in length with a 2 rectangular shaped moats around its perimeter. Futagoyama Kofun is the largest of all tumuli at Sakitama Ancient Burial Mounds. This is estimated to have been created at the beginning of the 6th century. At present the inner moat contains water, however it is thought that at the time the burial mound was created the moat was dry.



反時計回りに回ってみよう！/右手が前方部、左奥は後円部 video

近づいて、中堤から内堀越しに見たところ

video

前方部を後ろから内堀越しに見たところ

video

右手に回って、中堤から正面に前方部、右奥に後円部を見たところ video

そこで、左手に中堤を見たところ

同じく、右手に中堤を見たところ/中堤の右手は外堀

中堀越しに正面に前方部、右奥に後円部を見たところ

video

外堀越しに墳丘を見たところ/左手が前方部、右手は後円部/植栽の手前の一段高い部分が中堤 video

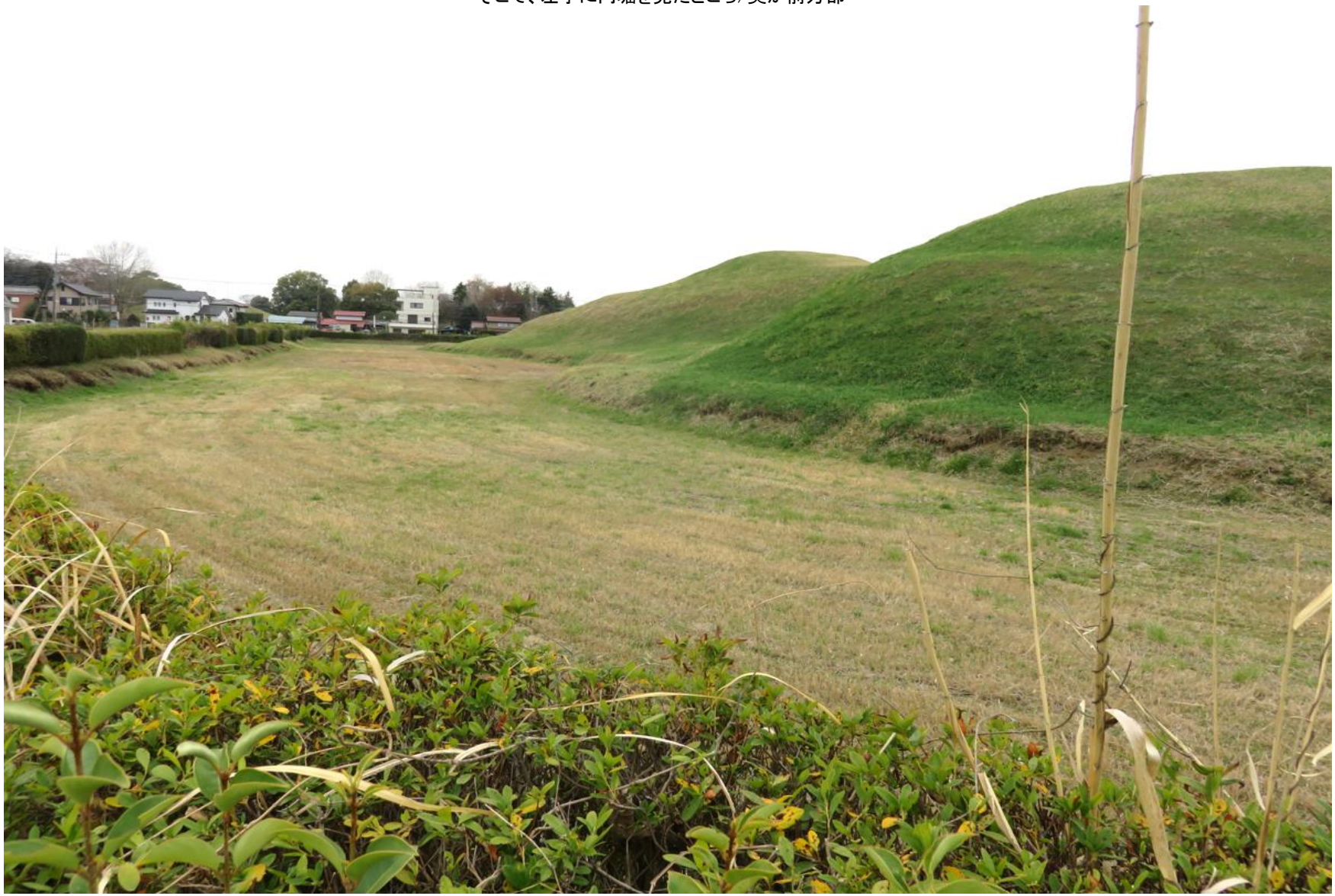
そこで、左手に外堀を見たところ

同じく、右手に外堀を見たところ

外堀越しに墳丘を見たところ/右手が後円部、左奥は前方部

近づいて、中堤越しに見たところ/右手が後円部、左奥は前方部/地中レーダー探査では後円部東側に開口する横穴式石室があるらしい　video

そこで、左手に内堀を見たところ/奥が前方部



同じく、右手に中堤を見たところ/右手は外堀

後円部の後ろの中堤から後円部を見たところ

video

そこで、左手に内堀を見たところ

同じく、右手に内堀を見たところ

左手が後円部/右奥は前方部

video

左手に中堤と外堀を見たところ

同じく、右手に中堤と外堀を見たところ/前方で中堤から外堀に張り出している部分は造出し

外堀越しに墳丘を見たところ/左手が後円部、右手は前方部/植栽の手前の一段高い部分が中堤

近づいて、内堀越しに見たところ/正面の括れ部辺りに墳丘前方部から張り出した造出し(復元)がある video

そこで、左手を見たところ

video

同じく、右手を見たところ

video

その造出しをアップで見たところ

そこで、左手に振り返ると、こちらが中堤から外堀に張り出した造出し video

上の写真の左角からその造出しを見たところ/墳丘から張り出した造出しは祭祀の主催者、こちらの造出しは来賓者の席だろうか？ video

造出しの上から墳丘を見たところ/こちらの造出しには相当の人数が祭祀に参加できるようだ video

括れ部辺りの前方部から張り出した造出しを、右手から見たところ/上段と下段の二段からなる方形の墳丘造出しであったようだ video

【丸墓山古墳】

南東側から見た丸墓山古墳/6世紀前半頃築造の円墳/円墳では国内で二番目の規模を誇る

上記の二子山古墳と丸墓山古墳の築造順については諸説あるようだ（後述）

丸墓山古墳

直径105mあり円墳では日本最大です。墳丘は埼玉古墳群の中で一番高く、約19mあります。墳丘に使われた土の量は二子山古墳より多かったという試算もあります。出土した埴輪から、６世紀前半ころに築かれたと推定されています。埋葬施設の内容は、現在のところ確認されていません。

南側から古墳にいたる道は、1590年に石田三成が忍城を水攻めにした時に築いた堤防の跡といわれている「石田堤」です。水攻めの際には、古墳の頂上に陣が張られました。

平成19年（2007年）　埼玉県教育委員会

Maruhakayama Kofun

With a diameter of 105 meters, this is Japan's largest circular *kofun*. The 19m high of the *kofun* is the highest of all tumuli in Sakitama Ancient Burial Mounds. The volume of earth used in its construction is thought to exceed the volume of earth used at the *Futagoyama kofun*. It is estimated that this particular *kofun* was built around the first half of the 6th century.

墳頂への南西側からの登り口 video

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

その更に右手に、墳丘を巡る周堀を見たところ

それでは墳丘を登ってみよう！

video

ここが墳頂

こちらは墳頂への北東側からの登り口から登って来たところ video

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

前方が墳頂への南西側からの登り口から登って来たところ video

墳頂の西側からは忍城のエリアが見える video

丸墓山古墳と忍城

天正十八年（1590）、豊臣秀吉の命を受けた石田三成は、総延長28km（一説には14km）の石田堤を築き、忍城を水攻めしました。丸墓山古墳は高さが19mもあり、周辺を一望できることから三成の陣が張られたと言われています。

北の利根川水系、南の荒川水系の水を流し込んでの城攻めは成功せず、豊臣秀吉が唯一落とせなかった城とも言われています。

現在は行田市博物館の一部となっている御三階櫓（復元）が見える

こちらは直ぐ近くの稲荷山古墳

同じく、将軍山古墳が遠方に見える/手前に円墳の埼玉2、3、4号墳跡が植栽で表示されているのが見える

アップで将軍山古墳と手前の埼玉2号墳跡を見たところ

これは墳頂への北東側からの登り口を、下から見上げたところ

video

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

階段の途中まで登って、周囲を見たところ video

ズ～と退いて墳丘を見たところ/この辺りは湿地状になっているが、これは旧忍川の名残のようだ video

墳頂への北東側からの登り口から反時計回りに進み、北側から墳丘を見たところ video

反時計回りに進み、西側から墳丘を見たところ video

これは東側から墳丘を見たところ

video

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

これは墳頂から見えた埼玉２号墳（6世紀前半築造の円墳/別名、梅塚古墳）跡/植栽で表示されている/この左後ろに3号墳跡、4号墳跡も同様に植栽で表示されている

video

なお、埼玉1号墳（天王山古墳）、5号墳～7号墳、ボッチ山、山宮古墳、天祥寺裏古墳などの円墳や大人塚古墳（前方後円墳）など、幾つもの古墳が存在していたようだ/いずれも6世紀代の築造らしい

さて、ここは墳頂の説明板にあった石田堤の一部/左手前に説明板がある/正面前方が丸墓山古墳 video

石田堤

この一段高い桜並木は、天正18年（1590）に豊臣秀吉の命を受けた石田三成が、忍城を水攻めした際の堤の一部です。長さ28km（一説には14km）に及ぶ堤をわずか5日間で築き、利根川と荒川の水を流入させたと言われています。三成の陣は丸墓山古墳の頂上に張られました。

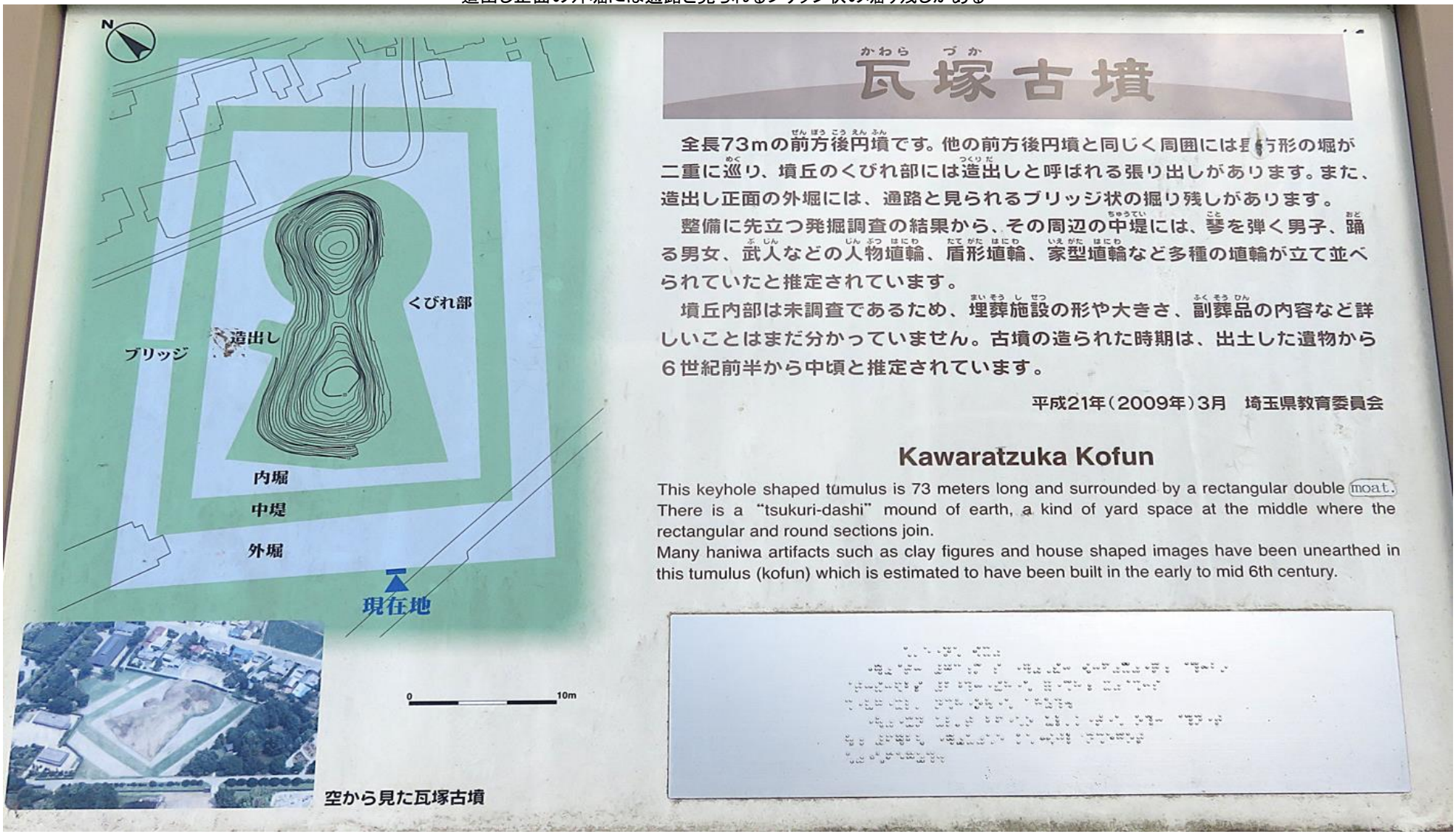
左手から石田堤を見たところ

video

【瓦塚古墳】

瓦塚古墳/6世紀前半～中頃築造の前方後円墳/左手が後円部、右手は前方部/長方形の堀が二重に巡り、墳丘括れ部に造出しがある　video

造出し正面の外堀には通路と見られるブリッジ状の堀り残しがある



空から見た瓦塚古墳

瓦塚古墳

全長73mの前方後円墳です。他の前方後円墳と同じく周囲には長方形の堀が二重に巡り、墳丘のくびれ部には造出しと呼ばれる張り出しがあります。また、造出し正面の外堀には、通路と見られるブリッジ状の堀り残しがあります。

整備に先立つ発掘調査の結果から、その周辺の中堤には、琴を弾く男子、踊る男女、武人などの人物埴輪、盾形埴輪、家型埴輪など多種の埴輪が立て並べられていたと推定されています。

墳丘内部は未調査であるため、埋葬施設の形や大きさ、副葬品の内容など詳しいことはまだ分かっていません。古墳の造られた時期は、出土した遺物から6世紀前半から中頃と推定されています。

平成21年（2009年）3月　埼玉県教育委員会

Kawaratzuka Kofun

This keyhole shaped tumulus is 73 meters long and surrounded by a rectangular double moat. There is a “tsukuri-dashi” mound of earth, a kind of yard space at the middle where the rectangular and round sections join.
Many haniwa artifacts such as clay figures and house shaped images have been unearthed in this tumulus (kofun) which is estimated to have been built in the early to mid 6th century.

各部位の標石が置かれている/中央手前は造出し正面の外堀にある通路と見られるブリッジ

そこで、左手からブリッジと外堀を見たところ

外堀
そと
ほり

ブリッジから中提とその向こうの内堀を見たところ

中堤

中提を右方向に見たところ

video

同じく、中提を左方向に見たところ

内堀と造出し

video

内堀

内堀を右方向に見たところ

同じく、内堀を左方向に見たところ video

ここが造出し

video

左手から造出しを見たところ

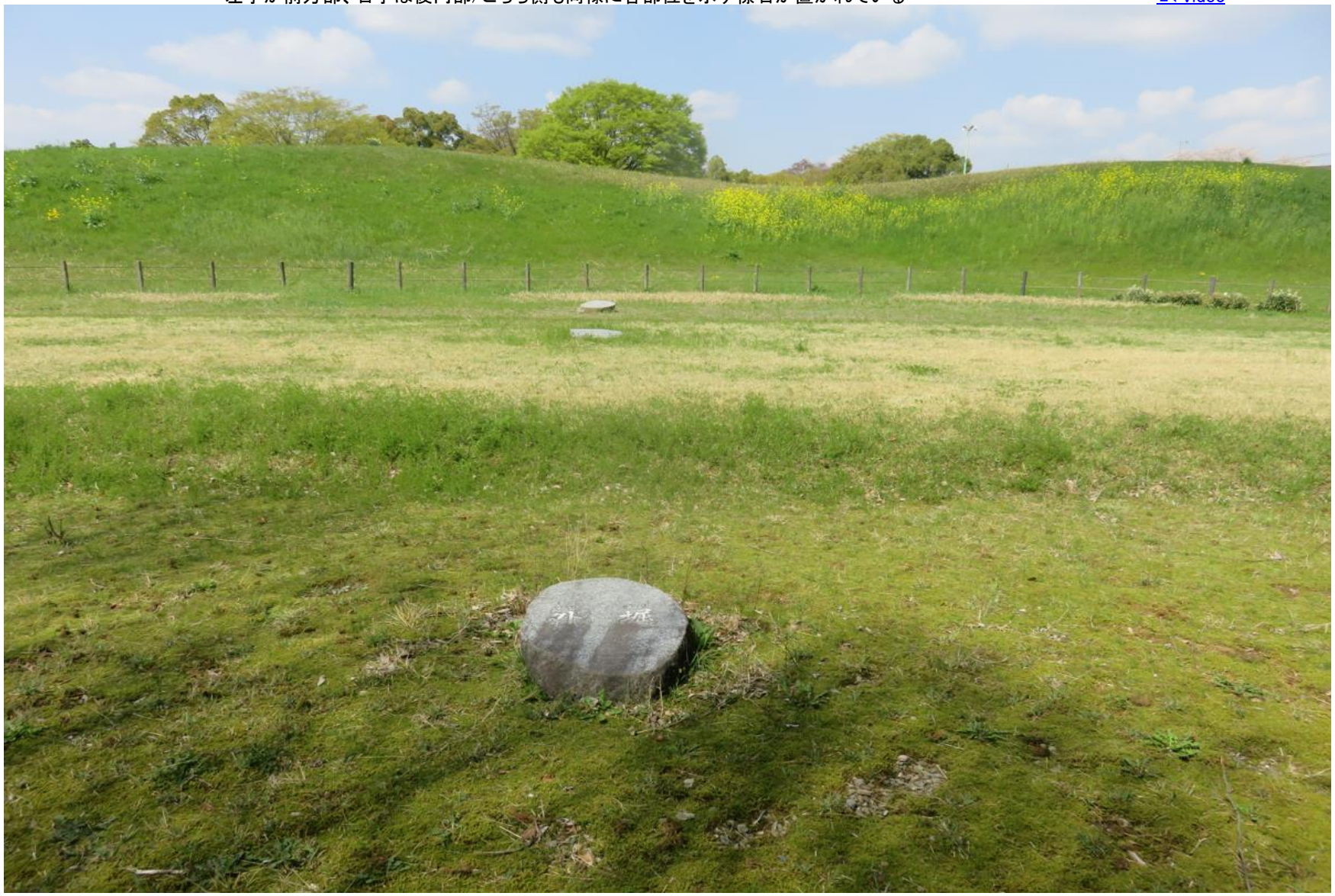
video

後円部の後ろから前方部方向を見たところ video

右手が後円部、左奥は前方部

そこで、左手を見たところ/中央が中提 video

左手が前方部、右手は後円部/こちら側も同様に各部位を示す標石が置かれている video



左手が前方部、右奥は後円部 video

そこで、右手を見たところ

同じく、左手を見たところ

前方部を後ろから見たところ

video

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

同様に各部位を示す標石が置かれている

そこで、右手を見たところ

同じく、左手を見たところ

中堤

そこで、右手を見たところ

video

同じく、左手を見たところ

video

そこで、右手を見たところ

同じく、左手を見たところ

右手が前方部、左奥は後円部 video

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

【奥の山古墳】

奥の山古墳/6世紀中頃～後半築造の前方後円墳/左手が前方部、右手は後円部/二重の周堀が巡っている video

墳丘は二段築成で、後円部墳丘西側には張出部があり祭祀が行われた形跡があるようだ（造出しのようなもの？）

奥の山古墳

墳丘全長66mの前方後円墳です。奥の山という名前は、古墳群を東から見たとき、戸場口山古墳・中の山古墳・奥の山古墳と並び、一番奥にあることから付けられました。

発掘調査により、それまで一重と考えられていた周堀が二重であることや、墳丘が二段に築かれ、段上には埴輪列が廻らされることなどがわかりました。また、古墳がつくられた当時の地面も確認されました。

後円部墳丘西側には張出部があり、子持壺や大型器台といった祭祀に使われた須恵器が出土しています。こうした出土遺物から6世紀中ごろから後半にかけてつくられた古墳と考えられています。

平成24年（2012年）3月　埼玉県教育委員会

張出部から出土した
子持壺と大型器台

Okunoyama Kofun

This is a 66 meter long keyhole-shaped burial mound (*kofun*). Its name is derived from its position behind two other *kofun*, Tobakuchiyama and Nakanoyama, when viewing the three burial mounds from the east.

Through an excavation it has been found that Okunoyama has two moats surrounding it, not just one as previously believed. There are also two levels built in the center of the burial mound, with clay *haniwa* figures lined around the upper level. The original ground from the period of the burial mound's construction was also uncovered.

On the western side of the Okunoyama kofun is a flared mound where unglazed *Sue* earthen wares. These artifacts included *komochi* jars and large vessel stands which were used in religious rituals, and from them it is thought that this burial mound was built in the middle to later half 6th Century.

後円部を後ろから見たところ

video

左手から見たところ/右手が後円部、左奥は前方部 video

時計回りに進んで見たところ/左手が前方部、右奥は後円部/後円部の更に右奥には鉄砲山古墳が見える video

右手が前方部、左奥は後円部/更に左奥には鉄砲山古墳が見える video

そこで、右手を見たところ/通路になっている部分が中提/その左手が内堀、右手は外堀 video

左手が後円部、右手は前方部/こちら側の括れ部辺りの後円部には三角形に張り出す造出しがあるというが・・・ video

【将軍山古墳】

将軍山古墳/6世紀後半築造の前方後円墳/左手が後円部、右手は前方部/長方形の周堀が二重に巡っている video

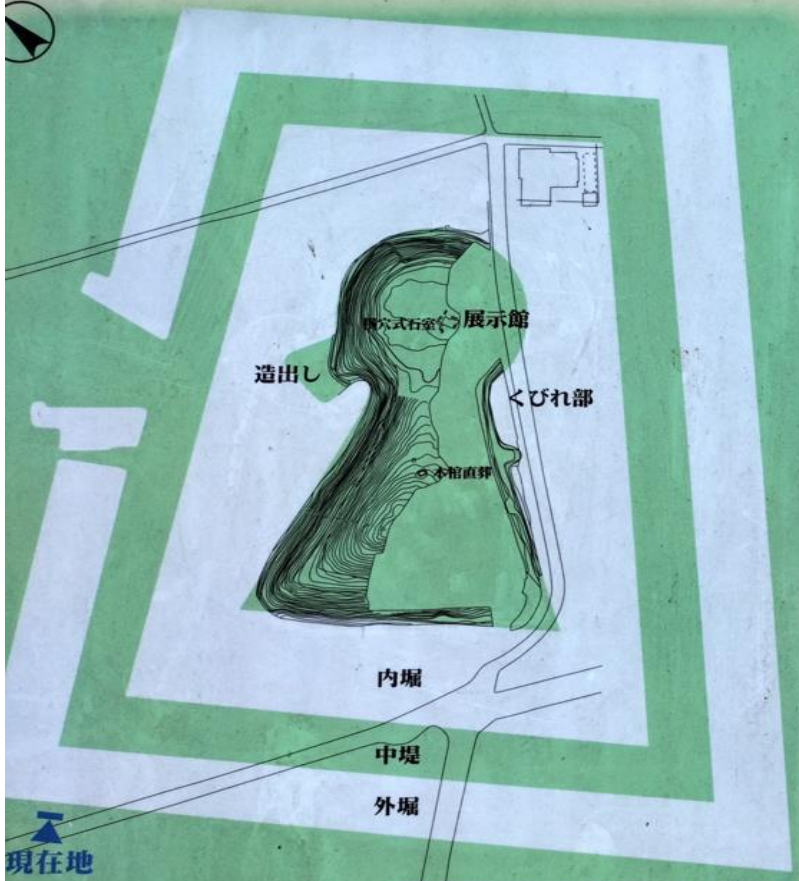
後円部と中提に造出しがあり、稲荷山古墳・二子山古墳と同じ形態をしている/埋葬施設は千葉県富津市産の房州石を用いた横穴式石室

将軍山古墳

全長90ｍの前方後円墳です。明治27年（1894年）に横穴式石室が発掘され、多数の副葬品が出土しました。この石室には、千葉県富津市付近で産出する「房州石」が用いられており、古墳時代の関東地方における地域交流を考える上で重要な古墳です。

周囲には長方形の堀が中堤をはさんで二重に巡り、後円部と中堤には造出しと呼ばれる張り出しがあります。稲荷山古墳・二子山古墳と同じ形態です。古墳の造られた時期は、出土した遺物から６世紀後半と推定されています。

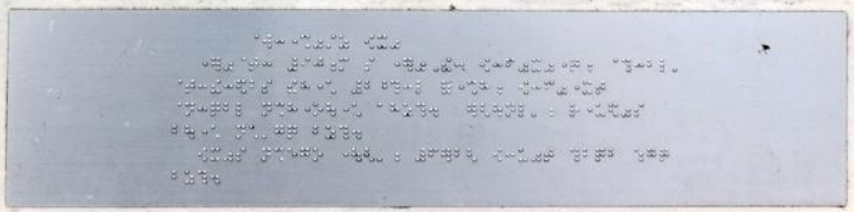
平成21年（2009年）3月　埼玉県教育委員会



空から見た将軍山古墳

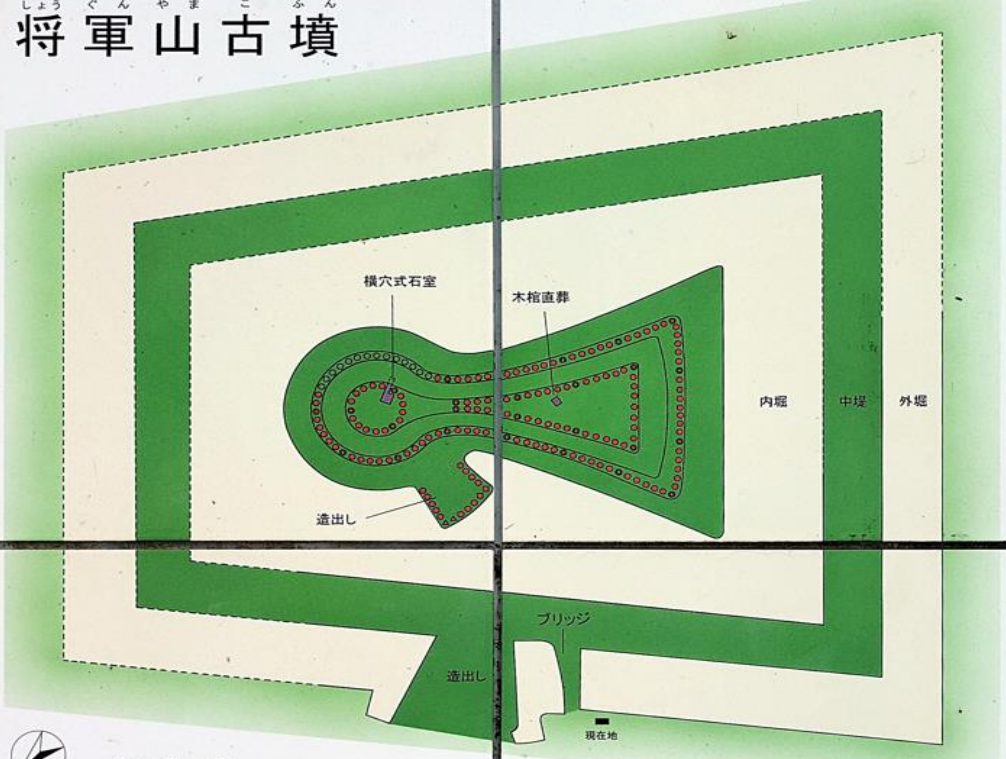
Shogunyama Kofun

This is a 90 meter long keyhole shaped tumulus surrounded by a rectangular double moat. At the center and end of the tumulus is a “tsukuri-dashi” mound of earth. The stone chamber is built from stones from Chiba Prefecture. This tumulus (kofun) is estimated to have been built in the latter half of the 6th century.



前方部には木棺直葬の竪穴系の埋葬施設も見つかっているようだ

将軍山古墳



馬冑

高台付蓋付銅鋺

環頭大刀柄頭

埴輪の種類

- 円筒埴輪
- 朝顔形埴輪
- 盾形埴輪
- 靫形埴輪

将軍山古墳は、全長90m、後円部の直径39m、前方部の幅68mの前方後円墳です。明治27年(1894)に、地元の方々によって発掘調査が行われ、横穴式石室から、銅鋺・大刀・鉄矛・甲・冑・金銅製馬具・馬冑・蛇行状鉄器など多数の豪華な副葬品が出土しました。

造られた年代は、出土した遺物から、6世紀の後半と考えられます。埼玉古墳群の中では、4番目に大きい前方後円墳で、はじめて横穴式石室を採用した古墳です。

この横穴式石室には、千葉県富津市付近の海岸で採取された「房州石」と呼ばれる石材が利用されており、関東地方の古墳時代の歴史を考える上で重要な古墳となっています。

平成3年度から平成8年度に、文化庁の協力を得て、墳丘・堀の発掘調査及び復原、石室の保存施設の建設などの整備を行いました。

発掘調査の結果、周囲には長方形の堀が二重にめぐり、後円部と中堤に、死者を弔う祀りが行われた場所と考えられる大きな造出しがあり、稲荷山古墳・二子山古墳と同じ形態であることがわかりました。

また、前方部には木の棺を竪穴の中に安置した、木棺直葬と呼ばれる埋葬施設が新たに発見されました。さらに、墳丘頂上と斜面の段、堀の中(墳丘から落下したもの)からは、円筒埴輪・朝顔形埴輪をはじめ、盾・靫・人物などの形象埴輪が出土しました。

後円部南側には、副葬品の復原模型が置かれた横穴式石室や古墳の断面が見学できる展示館があります。

右手が前方部、左奥は後円部/外堀から中提・内堀越しに見たところ

video

左手が後円部、右手は前方部/外堀の後方から見たところ

video

正面が外堀を渡るブリッジ/左手は中提から張り出す造出し（復元）

video

そこで、左手に造出しを見たところ

video

中提側から造出しを見たところ

video

中提の付け根から張り出した造出しを見たところ/右前方に稲荷山古墳が見える video

中提側から造出しを見たところ

video

造出しから墳丘を見たところ/かなりの人数が祭祀に参加出来そう！/前方の円筒埴輪が並んでいる部分が後円部から張り出した造出し

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ/外堀を渡るブリッジが見える（女性が歩いている部分）

これが後円部から張り出した造出し

video

右手から見たところ/内堀に張り出している

そこで、左手に中提を見たところ/右手が内堀、左手は外堀

左手から内堀に張り出している造出しを見たところ

video

そこで、右手に中提を見たところ/左手が内堀、右手は外堀/前方に二子山古墳が見える video

造出し同様に、墳丘上にも円筒埴輪が並べられている

こんな塩梅

中提から後円部の後ろ側を見たところ

そこで、右手を見たところ

video

後円部を後ろから見たところ/左手に見えるコンクリート構造物は将軍山古墳展示館 video

左手で、後円部から前方部方向を見たところ

そこで、右手を見たところ

video

正面が前方部

video

前方部から後円部方向を見たところ video

ここが後円部にある将軍山古墳展示館

video

それでは将軍山古墳展示館に入ってみよう！

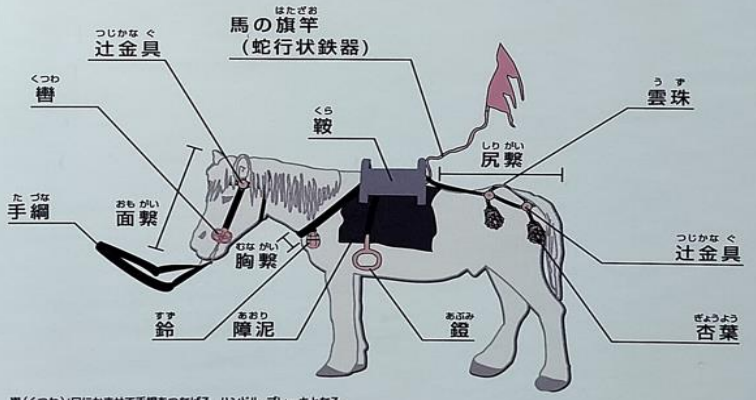
何と言っても豊富な馬具が一押し！

video

復原！古墳時代の馬の装い

わが国に騎馬の風習がはじまるのは、4世紀末ころからで、朝鮮半島との交流のなかで、はじめて騎馬術と馬具がもたらされました。馬具は5～6世紀の古墳に、副葬品として納められていますが、金属部分をつないでいた革や布・木質部分は、腐食してしまうため残りません。馬への装着方法は、馬具の形状や馬形埴輪を参考に復原しました。

将軍山古墳のような、金色に輝くきらびやかな馬具や旗をつけて飾りたてる馬は、儀式や祭典などの際に重要な役割を果たしました。時には馬冑をつけて武装し、威信を高めることもあったと考えられます。



轡（くつわ）：口にかませて手綱をつなげる。ハンドル・ブレーキとなる
鞍（くら）：馬の背に固定し、騎手がすわる座席
障泥（あおり）：泥よけ
鐙（あぶみ）：またがる際の足がかりと安定をはかる。アクセルにもなる
面繋（おもがい）：轡を頭に固定するための帯状の装具
胸繋（むながい）：鞍から胸に掛け渡す帯状の装具
尻繋（しりがい）：鞍が前後にすれないように尻を通し安定させる装具
辻金具（つじかなぐ）：面繋・胸繋などの帯が交差する部分に使う
雲珠（うず）：尻繋の中央に置き、帯をつなぐ五個以上の脚をもつ金具
鈴（すず）：胸繋・尻繋などにつける
杏葉（ぎょうよう）：杏（あんず）の葉に似ている垂飾、胸繋・尻繋などにつける

将軍山古墳のあらまし

将軍山古墳は、埼玉古墳群のなかでは４番目の大きさで、はじめて横穴式石室を採用した前方後円墳として知られています。

古墳の周囲は、長方形の堀が二重にめぐり、後円部と堀の中堤に造出しを持つことから、稲荷山古墳、二子山古墳、鉄砲山古墳と同じ形態であることがわかりました。

このことから、埼玉古墳群の第４代目の首長の墓ではないかと考えられています。

埋葬施設である石室からは、飾大刀・金製勾玉・銅鋺・金銅製馬具・馬冑（馬の冑）・蛇行状鉄器など優れた遺物が出土しています。

なかでも馬冑は、朝鮮半島南部で多く出土することから、ここからもたらされて来たものと推定されています。

また、蛇行状鉄器も高句麗古墳の壁画にも描かれていることから、将軍山古墳に葬られた首長は、朝鮮半島との関わりが深い人物であったことが想定されています。

なお、古墳が造られた時期は、これらの副葬品などから、６世紀の後半には構築されていたと考えられます。

將軍山古墳概況

將軍山古墳位居埼玉古墳群中第四，它是最早採用的橫穴式的石室，前方後圓而有名。

古墳的周圍濬繞著雙重長方形的墳壕，從後圓部及墳壕中堤部的祭祀壇來看，它的形態是與稻荷山古墳，二子山古墳，鐵砲山古墳等相似。我們認為它有可能是埼玉古墳群的第四代首領的墳墓。

從殉葬物品的石室中出土的飾太刀，金製勾玉，銅鋺，金銅製馬具，馬盔，蛇行狀鐵器等，都是十分出色的歷史遺物。其中的馬盔在朝鮮半島南部亦有出土，可以推定它是來自朝鮮半島南部的物品。

此外，蛇行狀鐵器在高句麗的壁畫中也有所表現。我們以為將軍山古墳中埋葬的貴族首領也許是與朝鮮半島有著密切關聯的人物。

至於古墳的年代，就墳室中的殉葬物品來看，它的建築大約不會晚於公元六世紀的后半葉。

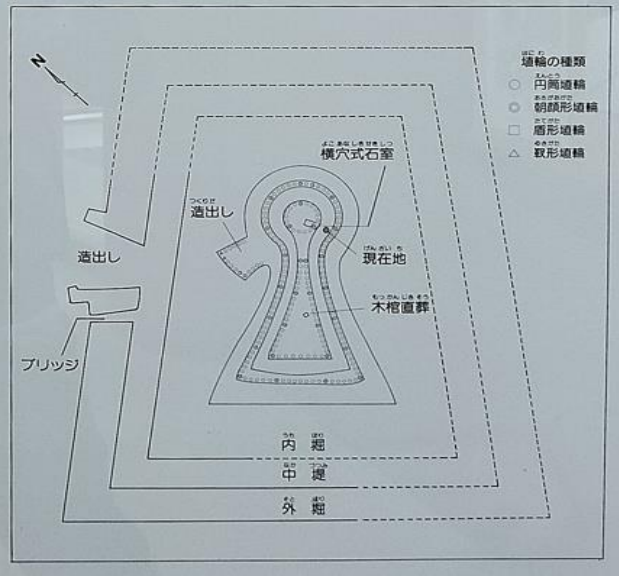
SUMMARY OF SHOGUNYAMA TUMULUS

Among the ancient tombs in Saitama Prefecture, the Shogunyama Tumulus ranks fourth in size and is known for its keyhole-shaped stone burial chamber. The tomb is surrounded by two rectangular moats and has square projections on the constricted part of the mound. This configuration is identical to those of the three larger tombs: Inariyama, Futagoyama, and Teppoyama. Consequently it is believed that the grave in the Shogunyama Tumulus is that of the fourth generation of rulers.

A number of relics including sword ornaments, gold magatama beads, bronze bowls, gold and copper horse trappings, horse helmets, and decorated ironware were recovered from the burial chamber. Presumably, some of these artifacts, particularly the horse helmets, originally came from the southern part of the Korean peninsula, where similar items have been found. The ironware discovered and murals painted on the walls of the Kokuri Tumulus also lead archaeologists to believe that the leaders buried in the Shogunyama Tumulus made deirect contact with the Korean peninsula.

In addition, judging from the funerary equipment found in the tomb, it is likely that the Shogunyama Tumulus was constructed in the latter half of the sixth century.

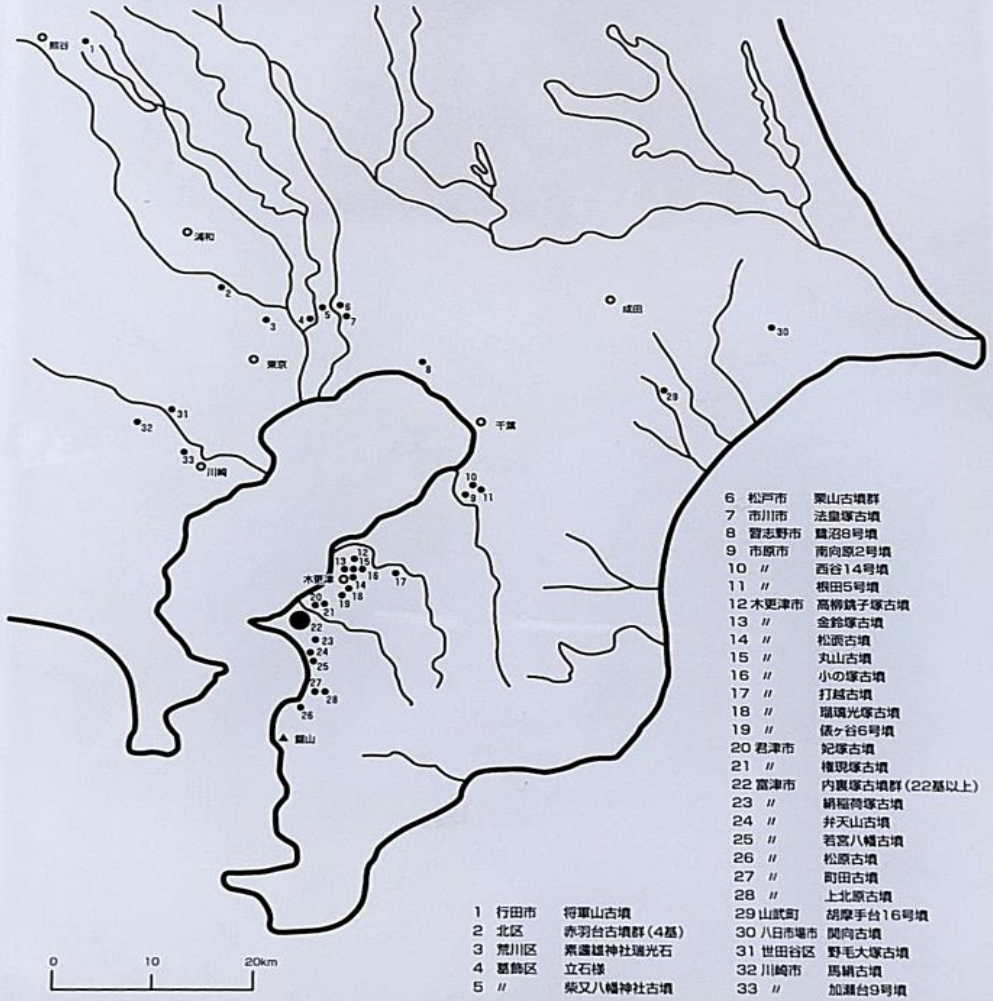
将軍山古墳復原図



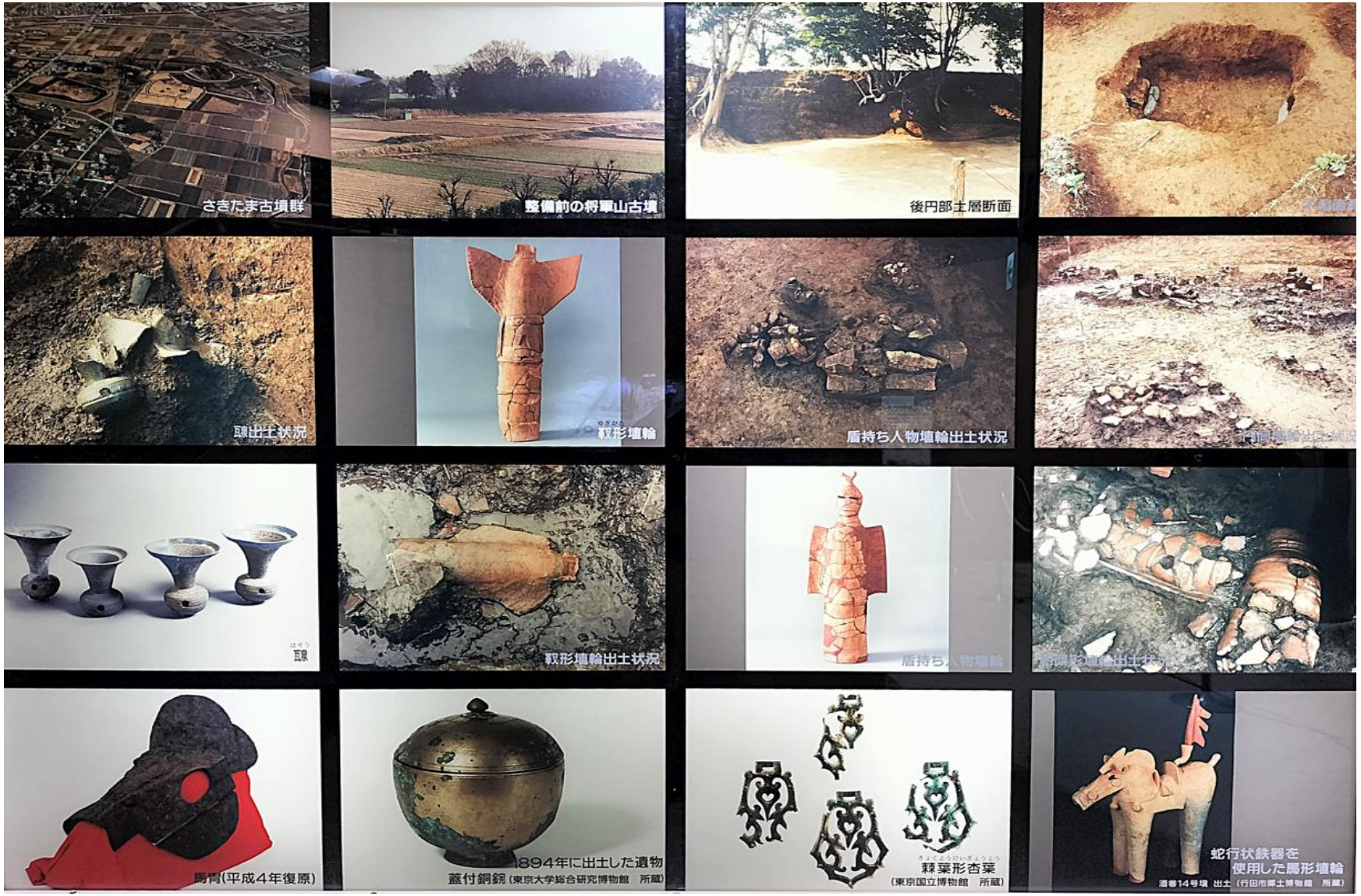
整備前には前方部はかなり削平されていたようだ

これが千葉県富津市産の房州石

房州石を使った古墳の分布



1 行田市 将軍山古墳
2 北区 赤羽台古墳群(4基)
3 荒川区 素盞雄神社瑞光石
4 葛飾区 立石様
5 〃 柴又八幡神社古墳
6 松戸市 栗山古墳群
7 市川市 法皇塚古墳
8 習志野市 鷺沼8号墳
9 市原市 南向原2号墳
10 〃 西谷14号墳
11 〃 根田5号墳
12 木更津市 高柳銚子塚古墳
13 〃 金鈴塚古墳
14 〃 松面古墳
15 〃 丸山古墳
16 〃 小の塚古墳
17 〃 打越古墳
18 〃 瑠璃光塚古墳
19 〃 俵ヶ谷6号墳
20 君津市 妃塚古墳
21 〃 権現塚古墳
22 富津市 内裏塚古墳群(22基以上)
23 〃 網稲荷塚古墳
24 〃 弁天山古墳
25 〃 若宮八幡古墳
26 〃 松原古墳
27 〃 町田古墳
28 〃 上北原古墳
29 山武町 胡摩手台16号墳
30 八日市場市 関向古墳
31 世田谷区 野毛大塚古墳
32 川崎市 馬絹古墳
33 〃 加瀬台9号墳

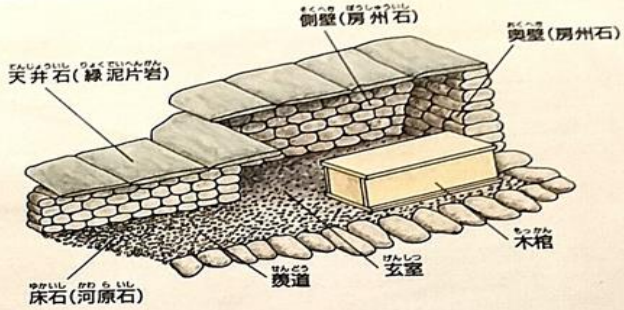

さきたま古墳群
整備前の将軍山古墳
後円部土層断面
埴出土状況
靫形埴輪
盾持ち人物埴輪出土状況
埴輪
靫形埴輪出土状況
盾持ち人物埴輪
馬冑(平成4年復原)
1894年に出土した遺物
蓋付銅鋺(東京大学総合研究博物館　所蔵)
棘葉形杏葉
(東京国立博物館　所蔵)
蛇行状鉄器を
使用した鳥形埴輪
酒巻14号墳　出土(行田市郷土博物館　所蔵)

埋葬の様子

video

遺構模型配置図

石室復原図



将軍山古墳は、埼玉古墳群で初めて横穴式石室を採用した古墳です。石室は石積みで造られ、棺を納めるための長方形の玄室と、外部から玄室に通じる羨道で構成されています。

側壁の石は、120キロメートルも離れた千葉県富津市の海岸で採取されたと考えられる「房州石」が使用され、天井には埼玉県長瀞町付近から採取される、大きな板状の緑泥片岩を使用していました。

現在は石積みの最下段だけが残り、他の部分の石は石室周辺の土とともに消失していました。また、羨道も全長の半分以上が失われています。

将軍山古墳の横穴式石室は、明治27年(1894)に最初の発掘が行われ、多数の豪華な遺物が出土していることで知られています。

しかし、遺物の多くは破損し、腐食していることから、これらの遺物の復原模型を製作し、石室内に副葬された当時の状態を想定して配置し、埋葬のようすを再現してみました。

遺体の安置には木棺が使われ、鏡・金環・玉・大刀は棺の中に納められます。矛や矢は棺の周辺に、銅鋺や須恵器などの容器は棺の手前に置かれ、甲・冑などの武具、鞍・鐙などの馬具は各々がまとまりをもって置かれたと推定されます。

副葬品には時期差が認められることから、追葬が行われたことが考えられます。その際には古い副葬品は隅にかたづけられたようです。

将軍山古墳から発見された馬具には、騎乗に必要な轡・鞍・鐙、馬を飾るための鏡板・辻金具・鈴・杏葉・雲珠・蛇行状鉄器、戦いの際に馬の頭を保護する馬冑があります。

これらの馬具の中で、馬冑と蛇行状鉄器は全国的に発見例が少ない貴重な資料です。蛇行状鉄器は、鉄棒を数段にわたって折り曲げ、一方を二股に作って鞍に装着し、片方の端に旗竿を差し込んだものです。

この使用例は、埴輪や朝鮮半島の古墳の壁画にみることができます。

将軍山古墳からは鉄製の挂甲と衝角付冑が出土しています。これらは敵の攻撃から身を守るための防具です。

挂甲は約900枚の小札とよばれる孔の開いた細長い小さな板を、紐や革で綴じ合わせて作る「よろい」です。

衝角付冑の頂には、三尾鉄とよばれる後方に３本の枝が出る小さな部品が付き、ここには、偉容を表わすために鳥の羽をつけていたようです。

想定図のように、頸・肩・腕を守るための装具が出土する例もあり、これらで武装すると30キログラム近い重量になります。

横から見たところ

video

古墳の土層パネル

古墳の断面

この土層パネルは、すでに露出していた将軍山古墳の墳丘断面を剥ぎ取ったものです。転写された土層を観察すると、褐色の土・暗褐色の関東ローム層・橙色の関東ローム層が交互に積み重なっていることがわかります。

このことから古墳は、墳丘が崩れることを防ぐため、これらの土を交互に叩きしめながら積み上げていったことがわかります。

将軍山古墳の盛土は、周囲の地層と一致することから、古墳をめぐる堀の中の土が利用されました。

THE CROSS-SECTION OF THE TOMB

This layer of soil, the previously exposed cross-section of the burial mound, has worn away over time.
If you observe the replica of the soil, you can see how the layers of brown soil and dark brown and orange-colored loam accumulated. In order to prevent the burial mound from collapsing, the soil was tightly packed and layered in alternating colors. The soil dug up to make the moats was used to raise the ground level around the tomb.

古墳的斷面

垓土層斷面圖示板是將軍山古墳發掘前露出地面部分的墳丘斷面層。從觀察該臨摹的土層可知墳丘是用褐色土、暗褐色的關東垆坶土層，橙色關東垆坶土層交互疊積起來的。

由此可見，為防止墳丘的倒塌，造墳時把返些不同土層交替著壘打起來的。

將軍山古墳丘的土質和墳丘周圍的地層一致、所以斷定古墳的建造土是利用的墳壕的控掘土。

【愛宕山古墳】

愛宕山古墳/6世紀前半築造の前方後円墳/左手が後円部、右手は前方部/長方形の周堀が二重に巡っている video

video

愛宕山古墳

愛宕山古墳

全長53m、埼玉古墳群の中でもっとも小さな前方後円墳です。

最小ではありますが、他の前方後円墳と同じく、周囲には長方形の堀が二重に巡ることが、発掘調査により確認されました。墳丘内部は未調査であるため、埋葬施設の形や大きさ、副葬品の内容など詳しいことはまだ分かっていません。

出土した遺物は、円筒埴輪のほか、人物・大刀・盾・蓋（貴人の傘）などを表現した形象埴輪があります。円筒埴輪は、高さが40cm前後で、他の古墳に比べ小さいのが特徴です。

古墳の造られた時期は、出土した遺物から６世紀前半と推定されています。

平成21年（2009年）3月　埼玉県教育委員会

Atagoyama Kofun

The total length of this tumulus is 53 meters and is the smallest of the keyhole shaped tumulus (kofun)s at Sakitama Kofun. It is surrounded by a double rectangular moat.
Haniwa clay figures and images have been unearthed in this tumulus(kofun) which is estimated to have been built in the first half of the 6th century.

左手が後円部、右奥は前方部/周堀に水が溜まっている

後円部から前方部方向に見たところ

正面が後円部、左奥は前方部/こちら側の周堀は道路となってしまっている video

左手が前方部、右手は後円部 video

前方部を後ろから見たところ

video

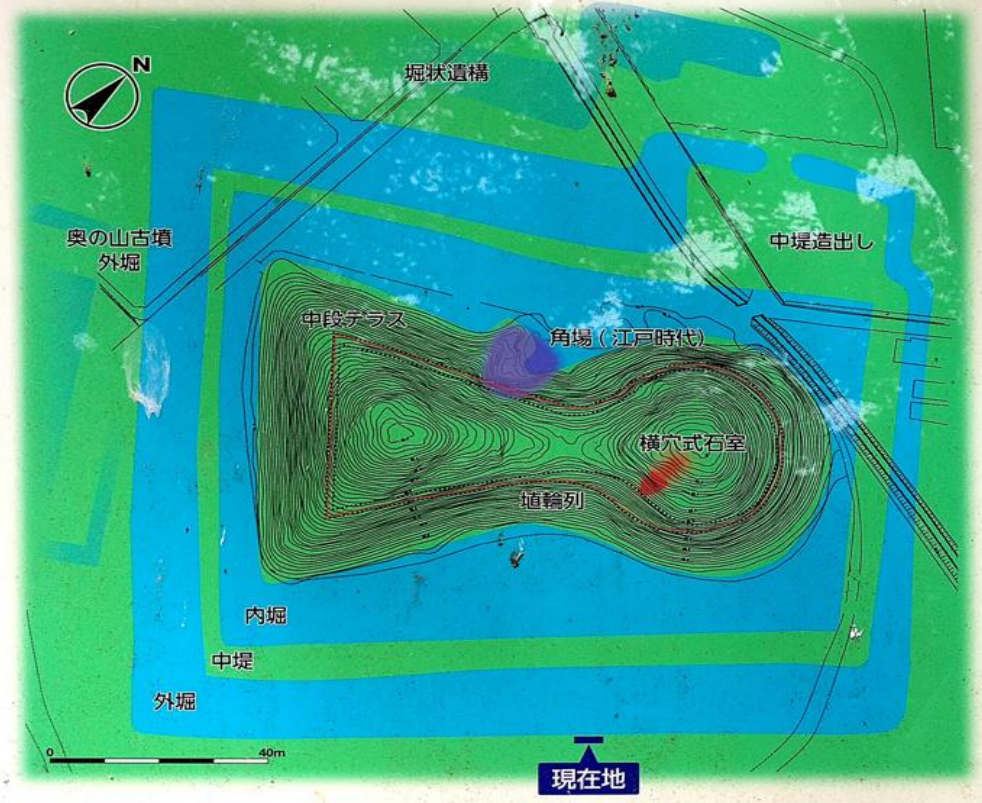
前方部から後円部（左奥）方向を見たところ

右手が前方部、左奥は後円部 video

【鉄砲山古墳】

鉄砲山古墳/6世紀前半築造の前方後円墳/左手が前方部、右手は後円部/長方形の周堀が二重に巡っている video

外堀の北西側に、古墳の堀と見られる「堀状遺構」が確認されているようだ



鉄砲山古墳

墳丘全長 107.6m、横穴式石室をもつ 6 世紀後半の前方後円墳で、埼玉古墳群では３番目の規模を誇ります。古墳の名前は、江戸時代に忍藩が砲術訓練場（角場）として墳丘を利用していたことに由来しています。

墳丘は二段築成で、中段のテラスなどには最大で 9 条の突帯をもつ大型の円筒埴輪が並べられていました。墳丘の周囲には、他の古墳と同様に方形の二重周堀が巡ります。さらに、外堀の北西側では古墳の堀とみられる遺構も確認されています。また、外堀の南西側は、鉄砲山古墳よりも古い時期に造られた奥の山古墳の外堀に接するとみられています。古墳が密集し土地が限られていても、他の古墳と同じように二重の周堀で囲まれていたようです。

令和５年（2023）３月　埼玉県教育委員会

Teppouyama Kofun

The size of this keyhole-shaped burial mound is 107.6 m. Around the mound, there are double rectangular moats. An archaeological excavation found a horizontal stone chamber. This burial mound was built in the late 6th century. The name of burial mourd comes from the fact this place was a gunnery training ground in the Edo period.
* "Teppou" means gun in Japanese.

インターネット上でより詳しい解説・動画をご覧頂くことができます。
You can see the more detailed explanation and movies on the internet.

▪ 日本語
▪ ENGLISH
▪ 簡体 / 繁体
▪ 한국

前方部を後ろから見たところ video

左手が前方部、右奥は後円部

video

後円部から前方部方向を見たところ video

左手が後円部、右手は前方部/こちら側の括れ部辺りの前方部に張り出していた造出しは、幕末に忍藩の鉄砲演習場である「角場」として改変されたらしい video

後円部から前方部方向を見たところ video

そこで、左手に後円部の後ろ側を見たところ

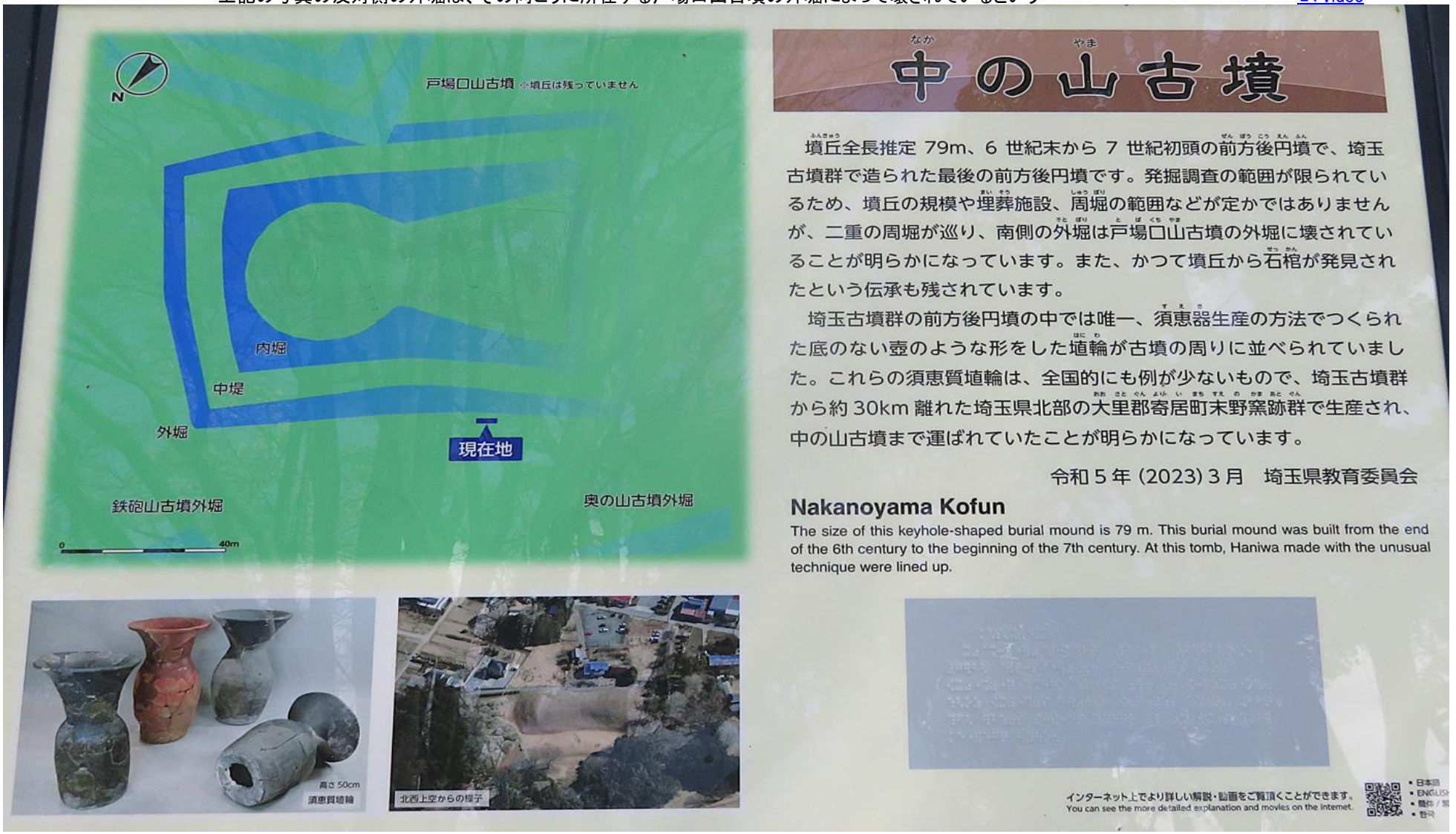
前方部から後円部方向を見たところ

video

【中の山古墳】

中の山古墳/6世紀末～7世紀初頭築造の前方後円墳/左手が後円部、右手は前方部/二重の周堀が巡っている video

上記の写真の反対側の外堀は、その向こうに所在する戸場口山古墳の外堀によって壊されているという video



右手が前方部、左奥は後円部

video

前方部を後ろから見たところ

video

前方部から後円部方向を見たところ

反対側で、前方部から後円部方向を見たところ video

そこで、左手に前方部の後ろ側を見たところ

後円部から前方部方向を見たところ video

そこで、右手に後円部の後ろ側を見たところ

後円部を後ろから見たところ

video

後円部から前方部方向を見たところ

video

そこで、左手に後円部の後ろ側を見たところ

【浅間塚古墳】

浅間塚古墳/7世紀前半築造の円墳/幅10mに及ぶ周溝が巡っているようだ video

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

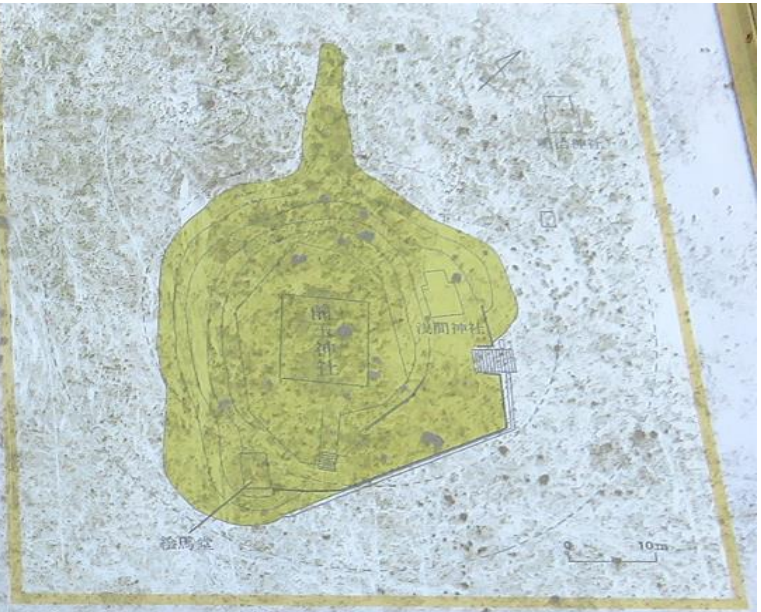
浅間塚古墳

浅間塚古墳は、埼玉古墳群の南東部に位置する墳径約50m、高さ８．７ｍの円墳です。古墳の墳頂に前玉神社、中腹に名前の由来となった浅間神社がまつられています。前玉神社は平安時代の『延喜式神名帳』にその名が見られ、古くから埼玉郡の総社として信仰を集めていました。

浅間塚古墳については、比較的最近まで古墳であるのか、後世に築かれた塚であるのか、議論が分かれていましたが、平成9･10年に行われた発掘調査で幅10mに及ぶ周溝が巡ることが確認され、古墳であることがほぼ明らかになりました。埴輪が樹てられていなかった可能性が高いこと、古墳の南西部の絵馬堂付近に石室の石材と思われる角閃石安山岩が見られることから、埼玉古墳群の築造が終わりを迎える７世紀前半頃に築かれた古墳と推測されています。埼玉古墳群の終わりを考える上で、重要な古墳であると思われます。

平成21年3月

行田市教育委員会



Sengenduka mounded tomb

Sengenduka mounded tomb is circular burial mound of about 50m in diameter and 8.7m in height that belongs to sakitama mounded tomb cluster.

It is guessed that this mounded tomb was built in around the seventh first half of the century. As a result of the excavation investigation, it was clarified though it was uncertain whether it was a mounded tomb or a tomb that had been built in future generations until recently in the mounded tomb.

It seems that it is an important mounded tomb for thinking about the end of sakitama mounded tomb cluster.

浅間塚古墳は前玉神社の境内に所在し、社殿がその墳頂に鎮座している

前方が境内側から見た浅間塚古墳

中腹から見上げた墳頂に鎮座する前玉神社社殿 video

その石段の登り口には一対の石燈籠が・・・

共に万葉集の一首が刻まれており、「小埼沼」と「埼玉の津」のフレーズからは、古代にこの地が舟運で賑わっていたことが読み取れる/さきたま古墳群の経済的基盤だった？

行田市指定文化財

石燈籠（いしどうろう）

昭和42年3月15日指定

この石段の登り口にある高さ２ｍ、２基一対の石燈籠は、元禄10年（1697）10月15日に、地元埼玉村（現在の行田市埼玉地区）の氏子一同が奉納したものです。

本殿に向かって左側の石燈籠には、「前玉之　小埼乃沼尓　鴨曾翼霧　己尾尓　零置流霜乎　掃等尓有斯（前玉の小埼の沼に鴨ぞ翼きる　己が尾に降り置ける霜を掃うとにあらし）」と『万葉集』９巻－1744の「小埼沼」の歌が、右側の石燈籠には「佐吉多萬能　津尓乎流布祢乃　可是乎伊多美　都奈波多由登毛　許登奈多延曾祢（埼玉の津に居る舟の風を疾み　綱は絶ゆとも言は絶えそね）」と『万葉集』14巻－3380の「埼玉の津」の歌が、美しい万葉仮名で竿の部分に刻まれています。この２首の歌は、地元行田市埼玉地区に関連する歌と考えられています。

この石燈籠は、『万葉集』に収められた歌の歌碑としては、全国的にみて非常に古いものになります。江戸時代には『万葉集』の研究が盛んになり、関心も高まっていました。そうした中でいち早くこの歌碑を建立した当時のこの地域の人々の文化的水準の高さと、江戸時代の『万葉集』への関心の高まりがうかがえる、貴重な文化財と言えるでしょう。

平成23年　　行田市教育委員会

別の角度から墳頂を見上げたところ video

これが墳頂に鎮座する前玉神社社殿 video

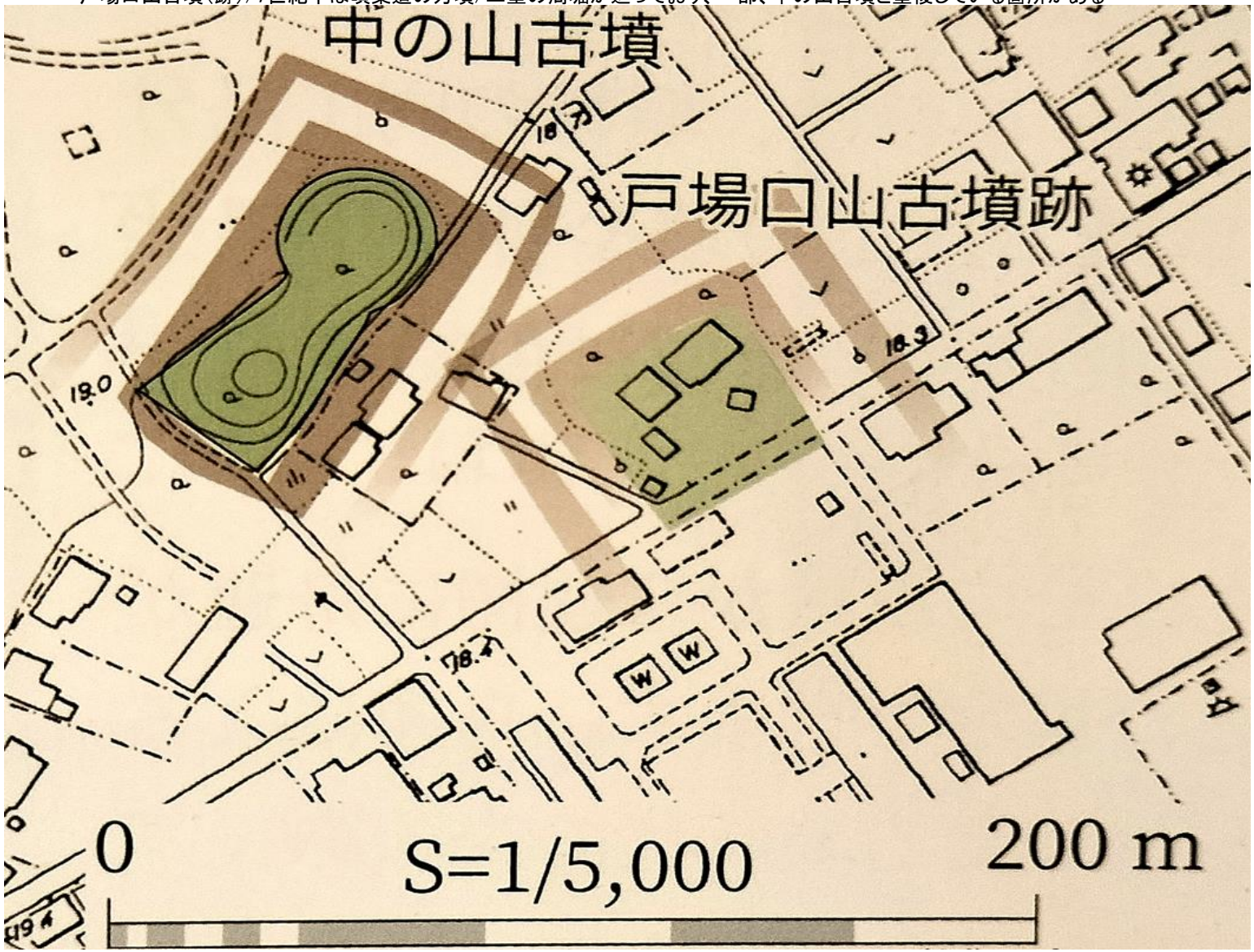
周溝を見下ろしたところ

video

墳丘の下には気になる水堀（池）が・・・ video

【戸場口山古墳（跡）】

戸場口山古墳（跡）/7世紀半ば頃築造の方墳/二重の周堀が巡っており、一部、中の山古墳と重複している箇所がある



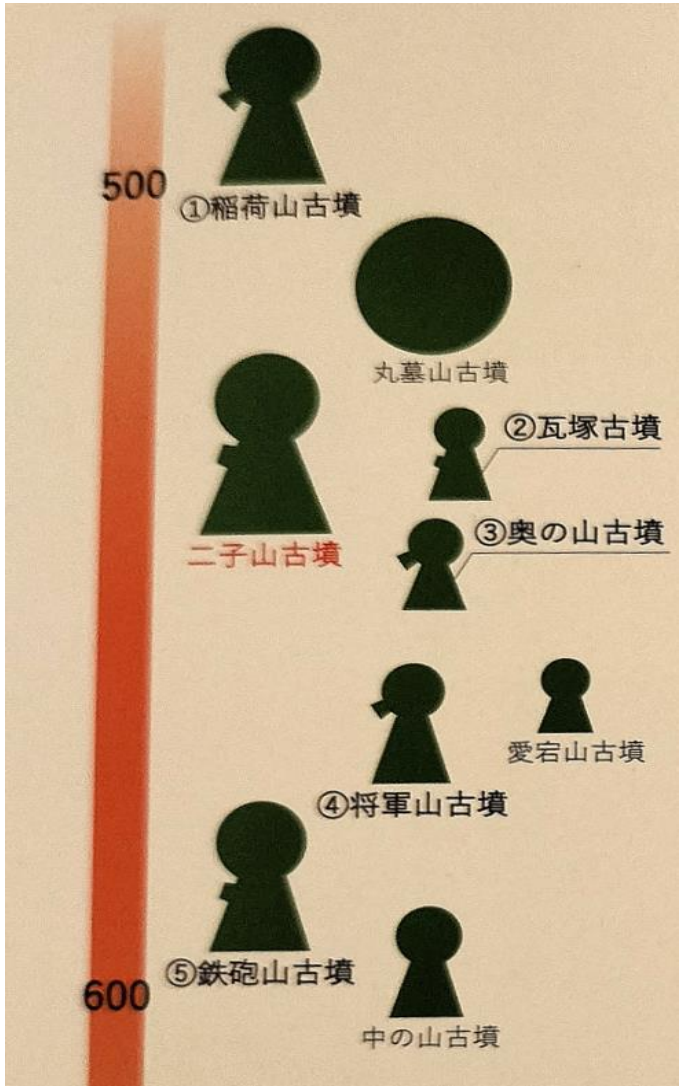
太陽光パネルのあるエリアに戸場口山古墳があったようだ/この左手が中の山古墳で、その南側の外堀が後から築造された戸場口山古墳の外堀によって壊されている

video

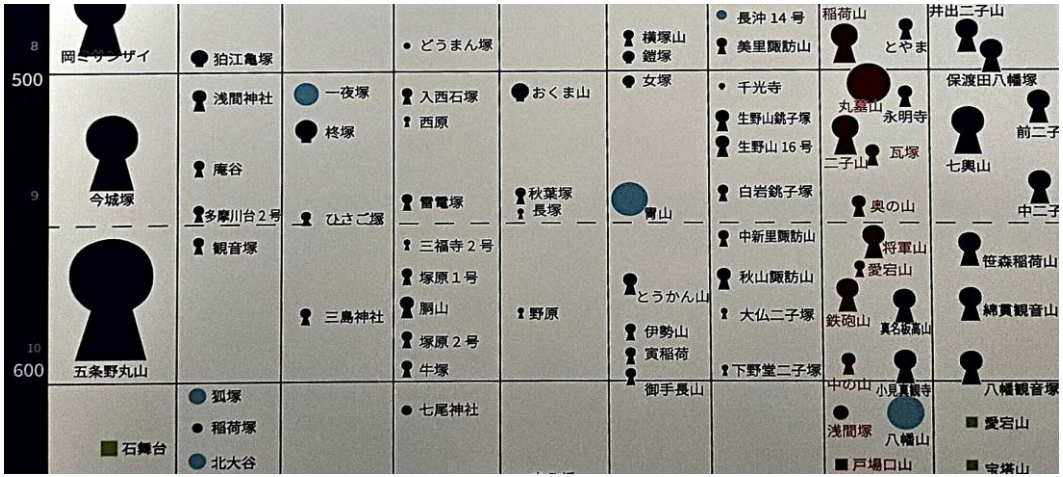
右手から見たところ/この道路も墳丘の部分だったようだ

video

さて、上記の古墳紹介の順番は左下の「さきたま史跡の博物館 令和5年度企画展 二子山古墳と祈りの器」の図を参考にしたが、丸墓山古墳と二子山古墳の順番を入れ替えている（理由は後述の通り）



※　こちらは同じ「さきたま史跡の博物館」の展示資料から切り取った編年表であるが、愛宕山古墳の順番が左図とは食い違っている



さきたま古墳群の各古墳の編年であるが、様々な見解があるようだ

	甘粕	金井塚	増田	斉藤	石野	増田	杉崎	増田	田中	甘粕	坂本	岡本	増田	太田	城倉
	1970	1979	1982	1984	1985	1987	1988	1991	1994	1995	1996	1997	1999	2007	2009
5c後	**丸墓山**	**丸墓山**	稲荷山	稲荷山	稲荷山・**丸墓山**	稲荷山	稲荷山	稲荷山	稲荷山	稲荷山	稲荷山	稲荷山	稲荷山	稲荷山	稲荷山
6c前	稲荷山	稲荷山	二子山・愛宕山	梅塚	二子山	二子山・愛宕山	**丸墓山**	**丸墓山**	二子山	**丸墓山**	二子山	二子山	二子山・**丸墓山**・稲荷山・礫槨	二子山	二子山
	二子山	二子山		二子山・愛宕山	鉄砲山・奥の山		二子山	二子山・愛宕山	**丸墓山**	二子山	**丸墓山**・愛宕山	**丸墓山**	鉄砲山・愛宕山	**丸墓山**	瓦塚・天祥正寺裏・奥の山
6c後	鉄砲山	鉄砲山	瓦塚	鉄砲山・瓦塚・中の山	瓦塚・中の山	鉄砲山・瓦塚		鉄砲山・奥の山		鉄砲山	瓦塚	愛宕山・瓦塚・奥の山	瓦塚	瓦塚	鉄砲山・奥の山
		奥の山	鉄砲山	**丸墓山**・奥の山		奥の山		瓦塚			奥の山	鉄砲山	将軍山	将軍山	将軍山・愛宕山
	将軍山	瓦塚	奥の山	将軍山	将軍山	将軍山		将軍山		将軍山	鉄砲山	将軍山	奥の山	愛宕山	
								中の山			中の山	中の山	中の山	鉄砲山	中の山
7c前	(真観寺)	中の山	(**丸墓山**)								将軍山		浅間塚	中の山	
			将軍山								浅間塚		戸場口山	浅間塚	
	(若王子)	将軍山									戸場口山			戸場口山	

※各古墳の年代は大凡の目安であり、筆者が勘案したものもある。

第１表　埼玉古墳群における各古墳の想定時期の推移

大東文化大学オープンカレッジ　講座資料　より

これは大東文化大学の平成28年度オープンカレッジ秋期講座での、坂本和俊氏の講座資料から一部抜粋したもの

5　埼玉古墳群の形成過程

埼玉古墳群の大型墳の形成は、稲荷山古墳、丸墓山古墳・二子山古墳、将軍山古墳、鉄砲山古墳の順であったと捉えるのが、これまでに出土した土器や埴輪の編年研究からすると妥当なようである。しかし、埴輪から見た時に丸墓山古墳が二子山古墳よりも古いとされたのを筆者は、丸墓山古墳の墳丘下にFAが堆積しているとする報告を受けて、二子山古墳の周溝に堆積する粘土層をFAと認識し、築造過程を訂正した経緯がある。実は二子山古墳の周溝に堆積する粘土層をFAと捉えたのは、筆者よりも田中正夫氏が早かったのだが、それを筆者は知らなかったのである。結果的に二人がこのように捉えたのは無視できない。

これに対して、円筒埴輪の編年を詳細に行った城倉正祥氏は自説を通すために、丸墓山古墳の墳丘下に堆積する粘土層、二子山古墳の周溝に堆積する粘土層共に科学的な分析を経たものでないからFAと認識出来ないとして、円筒埴輪編年の有効性だけを主張したのである。そこで改めて筆者は、城倉氏の論文を詳細に読んでみた上でその有効性を認めることになった。しかし、昨年12月に発掘調査が行われた行田市白山愛宕山古墳からTK47型式かMT15型式初頭の須恵器が出土し、その周溝にFAが堆積しているのが確認されたのである。この土層は、科学的な分析によってFAと認定されたものであり、その古墳から200m程しか離れていない丸墓山古墳の墳丘下の粘土層もFAと認定するのが妥当であろう。同様に筆者は、二子山古墳の周溝に堆積する粘土層をFAと認定する立場である。その上で、円筒埴輪の編年では丸墓山古墳を古いと考える。

これは矛盾することでなく、素直に古墳の築造は二子山古墳が丸墓山古墳より古かったが、円筒埴輪の樹立は丸墓山古墳が古かったと捉えるべきなのである。つまり、古墳は被葬者が生前から築造したのに対して、埴輪は被葬者が死亡して埋葬が行われてから樹立されたと捉えれば良いことをお互いに譲らず、真実を見ない結果だったと考えるのである。

大型の前方後円墳が築造される時代は、400年弱続いたとみられる。政権が安定していたとされる江戸時代よりも長いのであり、古墳造りが社会を疲弊させるとしたら古墳時代は400年以上続くことはなかったであろう。そう考えれば、古墳造りは社会を維持する装置で

あったと捉える必要がある。このことは、丸墓山古墳と二子山古墳を被葬者が生前から築造したと捉えることに繋がる。つまり、首長層は古墳を生前から農閑期に計画的に築造し、古墳造りに参加したものに食糧や鋤鍬類を賜与し、富や土木技術などを再分配して社会の安定を図ったと捉えるのである。

再点検！北武蔵の古代史−追悼・金井塚良一先生−/埼玉古墳群研究が示す新古墳像−金井塚先生と埼玉古墳群−　より

これによると、6世紀初め頃に噴火した浅間山の火山灰（FA）が、さきたま古墳群のエリアの白山愛宕山古墳で確認され、同じFAと見られる火山灰が丸墓山古墳では墳丘下から、二子山古墳では周溝に堆積していることが判明したという

つまり、丸墓山古墳の築造時期よりも二子山古墳の築造の方が早かったということになる

ただし、円筒埴輪の編年からすると、丸墓山古墳→二子山古墳の順になるらしい

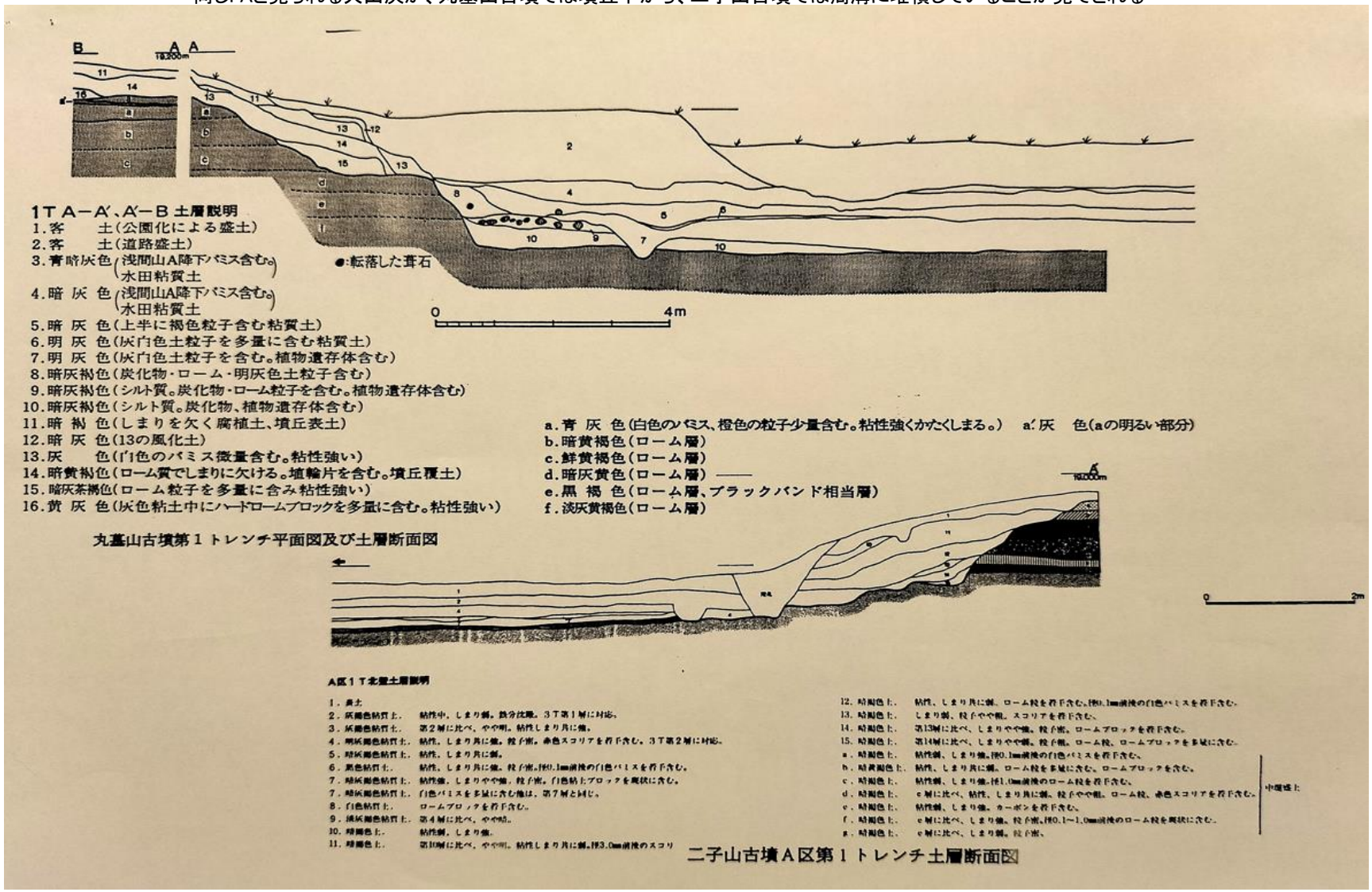
一見矛盾しているように見えるが、古墳は基本的に寿陵（被葬者が自ら生前に築いたもの）であるということで考えると、つじつまは合って来る

別稿でも述べたように、少なくとも大王（天皇）や各地の大首長の墓の造営のタイミングは、基本的には寿陵（生前に大王（天皇）と各地の大首長とが共通の祭祀形態（古墳、中でも前方後円墳）を通じてネットワークを具現化することが、古墳の大きな機能であったことからも想定できる）であったと思われる

後から造営した古墳に眠る予定の人物でも、前に造営した古墳に眠る予定の人物よりも早く亡くなれば、その古墳に樹立される円筒埴輪は早い時期の形式となることは当然であろう

次図は丸墓山古墳と二子山古墳のトレンチ土層断面図

同じFAと見られる火山灰が、丸墓山古墳では墳丘下から、二子山古墳では周溝に堆積していることが見てとれる



再点検！北武蔵の古代史−追悼・金井塚良一先生−/埼玉古墳群研究が示す新古墳像−金井塚先生と埼玉古墳群−　より

なお、さきたま古墳群の前方後円墳には三つの共通点があるという/左下は「さきたま史跡の博物館 令和5年度企画展 二子山古墳と祈りの器」より切り取り

① 前方後円墳の主軸が概ね南北に揃っている

② 長方形の二重の周堀を持つ

③ 墳丘造出しがすべて西側に造られている

上記より、さきたま古墳群の前方後円墳は西側を意識して造られているということのようだ

それでは何故西側を意識したのであろうか？

それは西側の古墳を仰ぎ見るような場所に人々の「眼」があった、つまり、当時の重要な交通路である河川があり、交通の拠点（津）があり、さきたま古墳群造営を支えた集落が存在していたからということらしい（前玉神社などに残る万葉集の句は、それを物語っているのかもしれない）

すると、その津は旧忍川沿いのあの辺りなのか！？（丸墓山古墳の墳頂から見えるかもしれません・・・）

「みずからの大きさや形を不特定多数の人々に「見せる」のが前方後円墳の最大の目的」といわれる通りであろう

また、三つの共通点からは非常に規格性の高い古墳群であることが読み取れるのだが、墳丘造出しの位置が後円部側にある古墳と前方部側にある古墳とがあり、土器や埴輪の使い方も一様ではなく、造出しを舞台とした祭祀の様相は各古墳によって異なっていた（祭祀の内容などは古墳ごとに選択されていた）という多面的な側面もあったようだ

ここで、6世紀前半にあったとされる「武蔵国造の乱」とは一体何だったのか、そして以前から折り合いの付かなかった武蔵国造の地位を巡って争った、同族の笠原直使主と小杵の墓は何処なのかを想定してみたい

日本書紀の安閑紀によると、小杵は関東全域に影響力を持つ上毛野（群馬）の豪族・小熊に支援を求め、笠原直使主を殺そうとした/それを察知した笠原直使主はヤマトに逃げ経緯を訴え出た/ヤマト王権は笠原直使主を武蔵国造と認め、小杵を誅殺した/笠原直使主は感謝のしるしに4カ所の領地を屯倉としてヤマト王権に差し出した・・・というもの（同時期、上毛野の緑野も屯倉としてヤマト王権の支配下に入っている）

別稿の岩戸山古墳（八女市）でも言及したように、当時ヤマト王権が中央集権化を強化する一環として、国造制の普及（この頃まではまだ国造制は成立していなかったとされる）と合わせて、全国の要衝（水路と道路の結節点）に屯倉を置く政策が進められていた中で、武蔵国にも四ヶ所の屯倉が設置されている/これは筑紫君磐井の乱と同様に、争いありきではなく、屯倉設置を推進した言い訳（正当化）として、国造職を巡る同族間の争いがクローズアップされたということのように思える/ 当時、日本全国に屯倉が設置されているのだが、何のトラブルもなく設置されている所がほとんどのようだ

つまり、6世紀前半はヤマト王権が国内の中央集権化を推し進める時代であり、その政策として屯倉設置があり、それに付随して屯倉を管理する組織として国造制・部民制といった統治体制が導入されていくことになったことを、日本書紀は伝えているということのように思えるのだが・・・

そして笠原直使主はその後、さきたま古墳群の系譜として武蔵国造の職を受け継いでいくことになる

さきたま古墳群は武蔵国造の奥津城とされ、武蔵国造の乱当時の国造、つまり笠原直使主の墓は6世紀前半に造営された二子山古墳が該当すると思われる

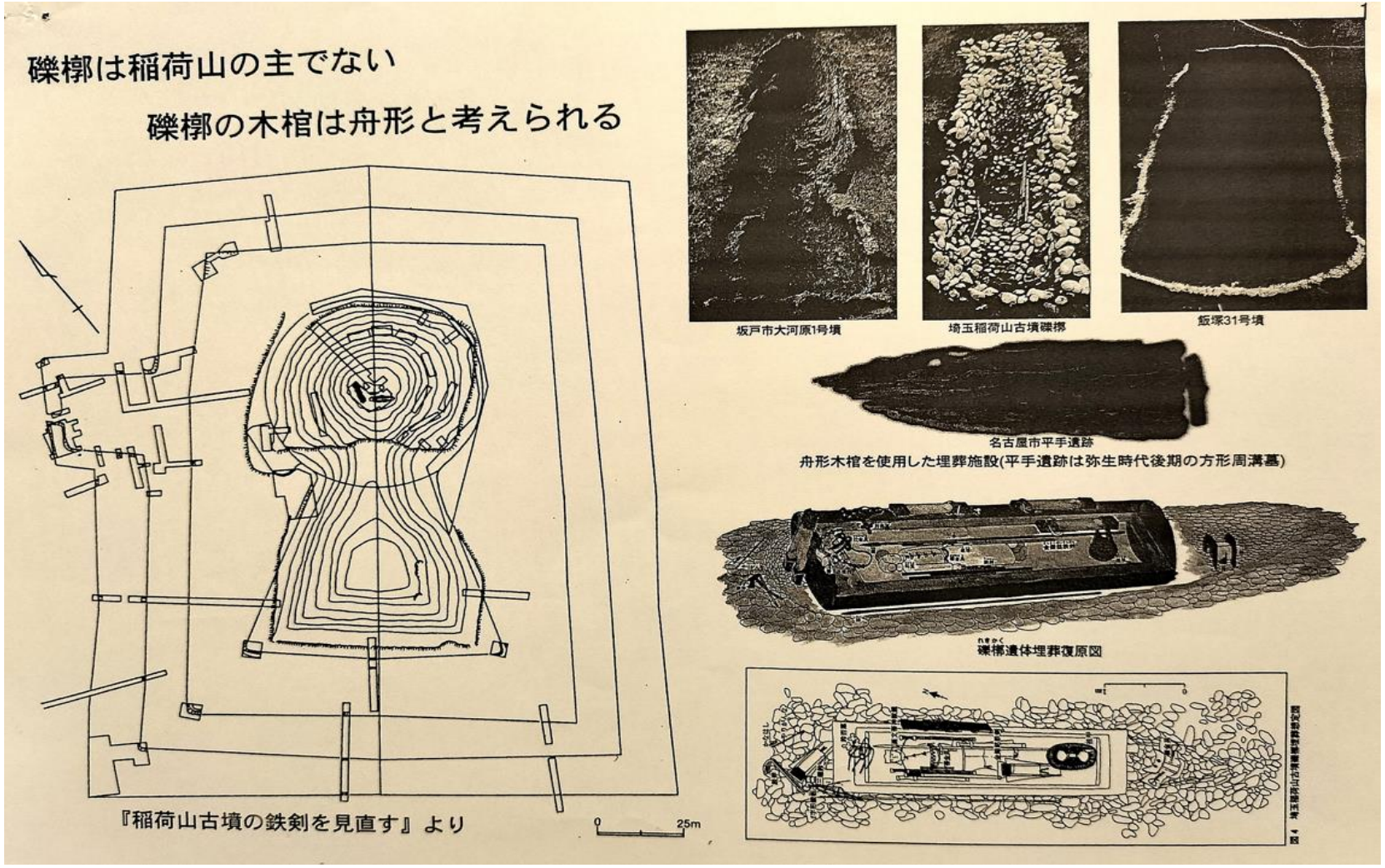
では、小杵の墓は何処であろうか？

諸説あるようだが、上記の坂本和俊氏の説によると、さきたま古墳の丸墓山古墳ではないかという

同族であり武蔵国造の地位を争う人物であれば、元々、さきたま古墳群のエリアに葬られても不思議はないようにも思える/ただし、小競り合いの末、国造職に就けなかったことで、その墳形は円墳となっているということらしい（それでも国内で2番目の規模を誇る）

※　岩戸山古墳（八女市）

ところで、金錯銘鉄剣を出土した礫槨の被葬者は一体誰であろうか？



再点検！北武蔵の古代史−追悼・金井塚良一先生−/埼玉古墳群研究が示す新古墳像−金井塚先生と埼玉古墳群−　より

稲荷山古墳の後円部から二つの埋葬施設が発見されているが、いずれも表層に近い浅い所にあり、レーザーによる調査では「真の被葬者」の埋葬施設はもう少し深い所にあることが判っている（国指定史跡になっており、発掘は出来ていない）

つまり、金錯銘鉄剣とともに葬られた礫槨の人物は、稲荷山古墳の被葬者の親族（兄弟か子供）ではないかとされるようだ

この点について、同じく上記の坂本和俊氏の説によると、「真の被葬者」の埋葬施設は古墳の主軸と交わる方向（東枕）とされており、主軸方向の埋葬施設をもつ礫槨（北枕）とは方位が異なるという（ちなみに、粘土槨の埋葬施設も主軸と交わる方向（東枕）を向いている）

そして、さきたま古墳群から20㎞圏内にある竪穴系埋葬施設では、埋葬施設の長軸方位が東西方向（東枕あるいは西枕？）を志向するのが一般的なのだという

また、礫槨に使用された木棺が舟形を呈すると推定されることにも言及している/さきたま古墳群から20㎞圏内にある竪穴系埋葬施設の木棺形態をみると、箱型木棺が主流であり、舟形木棺は少ないという

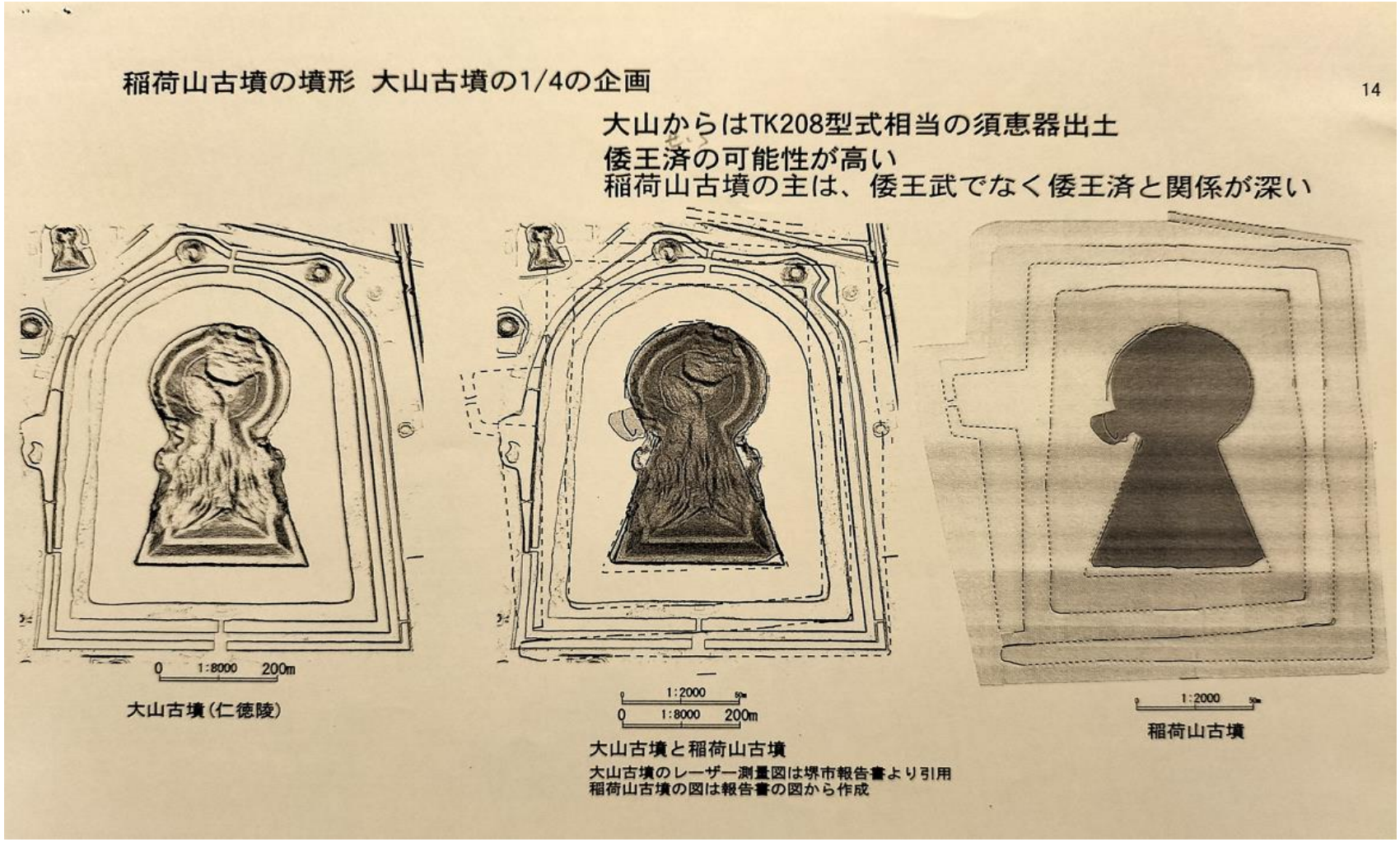
つまり、北枕を志向し舟形木棺を設置した礫槨は、さきたま古墳群とその周辺地域では異端の存在であるということらしい

以上のことから、礫槨の被葬者は在地の伝統的な方法で埋葬されなかった人物であり、さきたまの地から遠隔地の首長との交流を深めるために攻略的に送り込まれて結婚させられた、さきたまの首長系列の人物ではないかということのようだ

辛亥銘鉄剣と共に礫槨に埋葬された人物は生前に活躍した地域がさきたま地域ではなく、婿入り先かそこからヤマトへ出仕したという経歴をもつ人物と想定され、この被葬者が製作したにしても、賜与されたにしてもその製作地はさきたまの地ではなかったという

（なお、このような人物は死亡すると婚姻地で生まれた妻あるいは夫、子供達によって実家の古墳に運ばれて、婚姻先の葬法で埋葬されたことが想定できるという/当時の社会ではこのような墓制「帰葬」は一般的であったようだ）

それでは、稲荷山古墳の「真の被葬者」は一体誰であろうか？



再点検！北武蔵の古代史−追悼・金井塚良一先生−/埼玉古墳群研究が示す新古墳像−金井塚先生と埼玉古墳群−　より

稲荷山古墳の墳形は大仙陵古墳（5世紀中頃の築造とされる）と相似形であり、大仙陵古墳の被葬者とされる倭王済（允恭天皇とされる）とのネットワークが想定される

大王（天皇）と各地の大首長は、同じ設計企画の前方後円墳を共通の祭祀形態として持ち合わせることで、その政治的・経済的・軍事的結び付きの証しとしていたと思われる（古墳の大小がその従属性を現している）

このことは稲荷山古墳の被葬者が生前に大仙陵古墳の被葬者とネットワークを持つ関係にあったということを物語っている

ちなみに、金錯銘鉄剣は倭王武（雄略天皇とされる）の時代の物であり、雄略天皇の真の墓とされる岡ミザンザイ古墳の墳形との共通性が見られないことからも、礫槨に眠る被葬者が稲荷山古墳の被葬者ではないことが読み取れる

5世紀後半頃、さきたまの地に突然形成された稲荷山古墳/その出自や居館・集落の場所など、まだまだ謎だらけ　video